西部第一落合遺跡群（4）

前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２２

前橋市教育委員会

西部第一落合遺跡群（4）

前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２２

前橋市教育委員会

調査区全景（南西から）

DB－３号木棺墓全景（南東から）

調査区全景（上が北）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する西部第一落合遺跡群（４）は古代上野国の中枢地域の調査であり、上野国府推定域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、平安時代の竪穴建物跡を主体とする集落跡が見つかりました。この中からは、国府の役人が身に着けていたと考えられる腰帯の装飾具、巡方と丸鞆が出土しています。こうした成果の積み重ねが、「国府の解明」に繋がるものと確信しております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和４年３月

前橋市教育委員会
教育長　　吉川　真由美

例　　言

1　本報告書は前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う「西部第一落合遺跡群（４）」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査および整理作業の体制は以下の通りである。

遺跡名	西部第一落合遺跡群（４）（包蔵地名　前橋市 0134・0929 遺跡）
遺跡コード	３Ａ 269
遺跡所在地	群馬県前橋市元総社町 749、751-1、751-2
監理指導	寺内勝彦（前橋市教育委員会）
調査担当	岡野　茂（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和３年 10 月 11 日～令和３年 11 月 30 日
整理・報告書作成期間	令和３年 12 月　１日～令和４年　３月 25 日

発掘調査・整理作業参加者

大川明子　佐野良平（技研コンサル株式会社）

安藤三枝子　砂盃ありか　小田切幹緒　岡　眞　岡部四郎　岡本陽一　金井美由紀　北爪二郎

指田来実　杉田友香　田代京子　田代光男　立川千栄子　田所順子　中嶋知恵子　西山康子　福田邦弘

細野竹美　山口拓郎　吉浦英和

3　本書の編集は岡野が行い、原稿執筆についてはⅠを寺内、Ⅱ～Ⅴを岡野、Ⅵを佐野が担当した。

4　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会で保管されている。

5　下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北であり、座標については日本測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を使用した。

2　挿図に国土地理院発行 1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、竪穴建物跡：H、竪穴状遺構：T、道路状遺構：A、溝：W、井戸：Ｉ、墓壙：DB、土坑：D、ピット：Ｐである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　竪穴建物跡、竪穴状遺構溝、道路状遺構、井戸、土坑、ピット・・・1/60

墓壙・・・1/30、1/60、　全体図・・・1/150

遺物　土器・・・1/3、1/4　銅製品、石製品・・・1/2

5　本文および表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

6　遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。その他各図トーンを参照されたい。

須恵器（断面）：　灰釉陶器（断面）：　煤：　釉薬範囲：　摩耗：

目　　次

はじめに
例言・凡例
Ⅰ　調査に至る経緯…… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境…… 1
Ⅲ　調査方針と経過…… 5
Ⅳ　基本土層…… 5
Ⅴ　遺構と遺物…… 7
Ⅵ　まとめ……29

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市長　山本　龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）が施行する前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴い実施され、３年目にあたる。本事業地周辺は、上野国府推定域が近接すること、北側では元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、20 年以上に亘り発掘調査が実施され、数多くの貴重な調査成果を得ていることなどから、濃密な遺跡地として認識されている。

令和３年８月 25 日付けで前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼書が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理･指導のもと発掘調査を実施することとなった。令和３年 10 月５日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結されるとともに、両者に市教委を加えた三者で協定を締結し、発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「西部第一落合遺跡群（４）」（遺跡コード：3A269）の「西部第一落合」は土地区画整理事業名を採用し、「（４）」は当該土地区画整理事業において４番目に実施した発掘調査として付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　地理的環境

本遺跡が所在する前橋市元総社町は前橋市街地中心から南西約４km に位置する。市街地西端にあたる場所で周辺には現在も畑地が多く見られる場所である。遺跡南東約 200 m には国道 17 号線高崎前橋バイパス、北側約 200 m には県道 10 号線前橋安中富岡線、西側約１km には関越自動車道が南北に走っている。遺跡の東西には相馬ヶ原扇状地を源とする牛池川と染谷川が流れ、両河川に挟まれた地域に立地する。落合地区は榛名山南東に広がる相馬ヶ原扇状地から前橋台地といった平野部へと移行する地帯である。

本遺跡は令和元年度に調査された西部第一落合遺跡群（１）の西側、令和３年度に調査された西部第一落合遺跡群（２）の北側、西部第一落合遺跡群（３）の南東部に位置する。

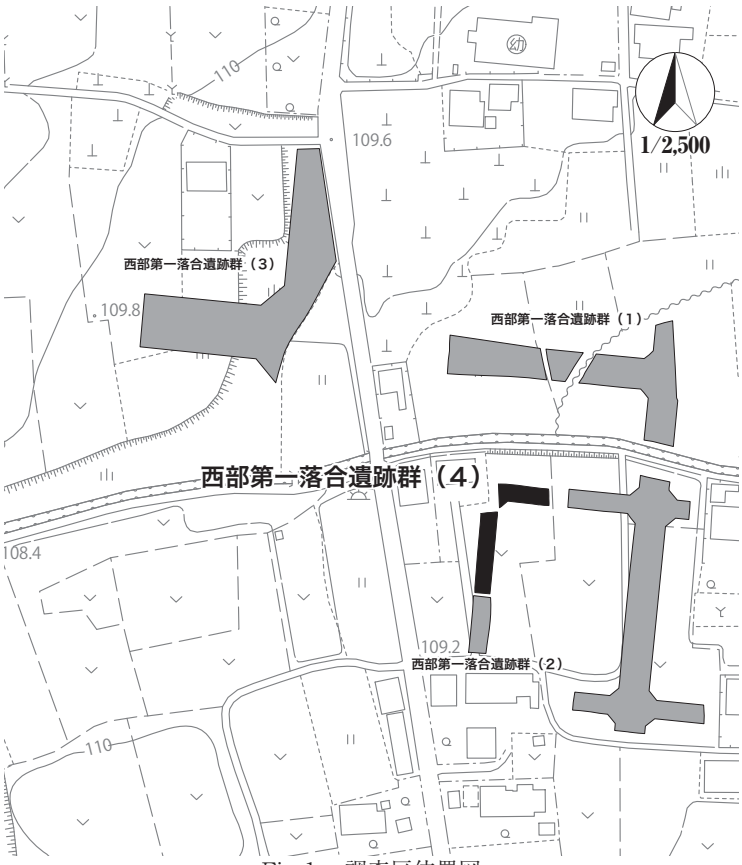


Fig. 1　調査区位置図

２　歴史的環境

前橋市の南西部に立地する本遺跡周辺地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。関越自動車道建設や元総社蒼海土地区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構・遺物が確認されている。本遺跡周辺地域での時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

（１）縄文時代　八幡川右岸の微高地上に産業道路東遺跡［19］・産業道路西遺跡［20］、染谷川左岸自然堤防上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［27］・元総社小見Ⅲ遺跡［13］・元総社蒼海遺跡群（24）［13］、牛池川左岸自然堤防上に元総社蒼海遺跡群（７）・（９）・（10）［13］などが挙げられ、各遺跡で竪穴住居跡が確認されている。

（２）弥生時代　当該期の遺跡は上野国分僧寺尼寺中間地域・正観寺遺跡［49］などがあるが、その分布は散在的である。元総社寺田遺跡Ⅲ〔44〕では牛池川自然堤防上で後期の住居群が確認されている。

（３）古墳時代　利根川右岸の地域は県内でも有数の古墳密集地域であり、代表するものとして総社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳［７］・愛宕山古墳［８］・宝塔山古墳［10］・蛇穴山古墳［11］などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王廃寺［４］が建立され、総社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。この時代の集落は牛池川・染谷川沿いの自然堤防上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。

（４）奈良・平安時代　奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺［２］・国分尼寺［３］の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は元総社地域の区域に約 900m 四方に推定されている。関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［46］では県下最大級の掘立柱建物跡が、元総社蒼海遺跡群（99）・（127）・（136）［13］、上野国府等範囲内容確認調査 28･33･34 トレンチでは掘込地業を持つ建物跡が検出されている。元総社蒼海遺跡群（９）・（10）・（95）［13］では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。牛池川沿いの元総社明神遺跡Ⅷと元総社寺田遺跡Ⅲでは人形が、元総社寺田遺跡では「國府」・「曹司」・「国」・「邑厨」などの国府関連施設名が書かれた墨書土器が出土している。元総社明神遺跡では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［36］や元総社蒼海遺跡群（７）・（９）・（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府域の外郭線の想定が為されている。

本遺跡周辺では高崎市浜川町周辺からＮ－64°－Ｅ方向へ東山道（国府ルート）が延びると推定されている。前橋市域では平成 28 年度上野国府等範囲内容確認調査 45 ａ・ｂトレンチにおいて２時期の両側側溝を持つ道路跡を確認している。鳥羽遺跡でも２条の道路跡が確認されている。日高遺跡では幅約 4.5m の推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。西部第一落合遺跡群（１）［52］では推定東山道の駅路と考えられていた低地部から上幅 18 m、深さ 1.8 ～ 2.4 mの大型の溝が確認された。溝底面の出土遺物や覆土中位に As-B が確認できることから古代の溝と想定されている。

当該期の一般的な集落は、牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査では元総社蒼海遺跡群（75 街区）No. 2［13］で鋳造遺構を伴う工房跡が検出され、小金銅仏・三鈷杵・銅印の鋳型と鋳造に使用した須恵器転用取瓶・坩堝が出土している。元総社蒼海遺跡群（145）［13］ではピットから 11 世紀前半と考えられるかわらけ状の坏と共に小金銅仏（観音菩薩立像）が出土している。元総社蒼海遺跡群（141）［13］では推定上野国府域を南北に縦断する道路状遺構の一部が検出されている。

（５）中世　室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12 ～ 15 世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は諏訪･秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長六年（1601）に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名
1	西部第一落合遺跡群（4）
2	上野国分寺跡
3	上野国分尼寺跡
4	山王廃寺跡
5	推定東山道国府ルート
6	推定日高道
7	王山古墳
8	愛宕山古墳
9	遠見山古墳
10	宝塔山古墳
11	蛇穴山古墳
12	稲荷山古墳
13	元総社蒼海遺跡群 元総社小見遺跡・Ⅱ～Ⅵ遺跡 元総社小見内遺跡・Ⅱ～Ⅹ遺跡 元総社草作遺跡・Ⅴ遺跡 総社甲稲荷塚大道西遺跡・Ⅱ～Ⅳ遺跡 総社閑泉明神北遺跡・Ⅱ～Ⅴ遺跡 元総社宅地遺跡
14	北原遺跡

番号	遺跡名
15	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡
16	村東遺跡
17	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ
18	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡
19	産業道路東遺跡
20	産業道路西遺跡
21	稲荷塚道東遺跡
22	大渡道場遺跡
23	大渡道場Ⅱ遺跡
24	元総社中学校遺跡
25	元総社北川遺跡
26	元総社牛池川遺跡
27	上野国分僧寺・尼寺中間地域
28	元総社西川遺跡
29	上野国分寺参道遺跡
30	塚田村東遺跡
31	鳥羽遺跡
32	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡
33	元総社早道乙遺跡
34	天神遺跡・Ⅱ遺跡

番号	遺跡名
35	天神Ⅲ遺跡
36	閑泉樋遺跡
37	閑泉樋南遺跡
38	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡
39	堰越遺跡
40	堰越Ⅱ遺跡
41	大友宅地添遺跡
42	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡
43	元総社明神遺跡Ⅰ～XIII
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ
45	寺田遺跡
46	元総社小学校校庭遺跡
47	元総社落合遺跡
48	中尾遺跡
49	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ
50	元総社稲葉遺跡
51	元総社弥勒遺跡
52	西部第一落合遺跡群（1）
53	西部第一落合遺跡群（2）
54	西部第一落合遺跡群（3）

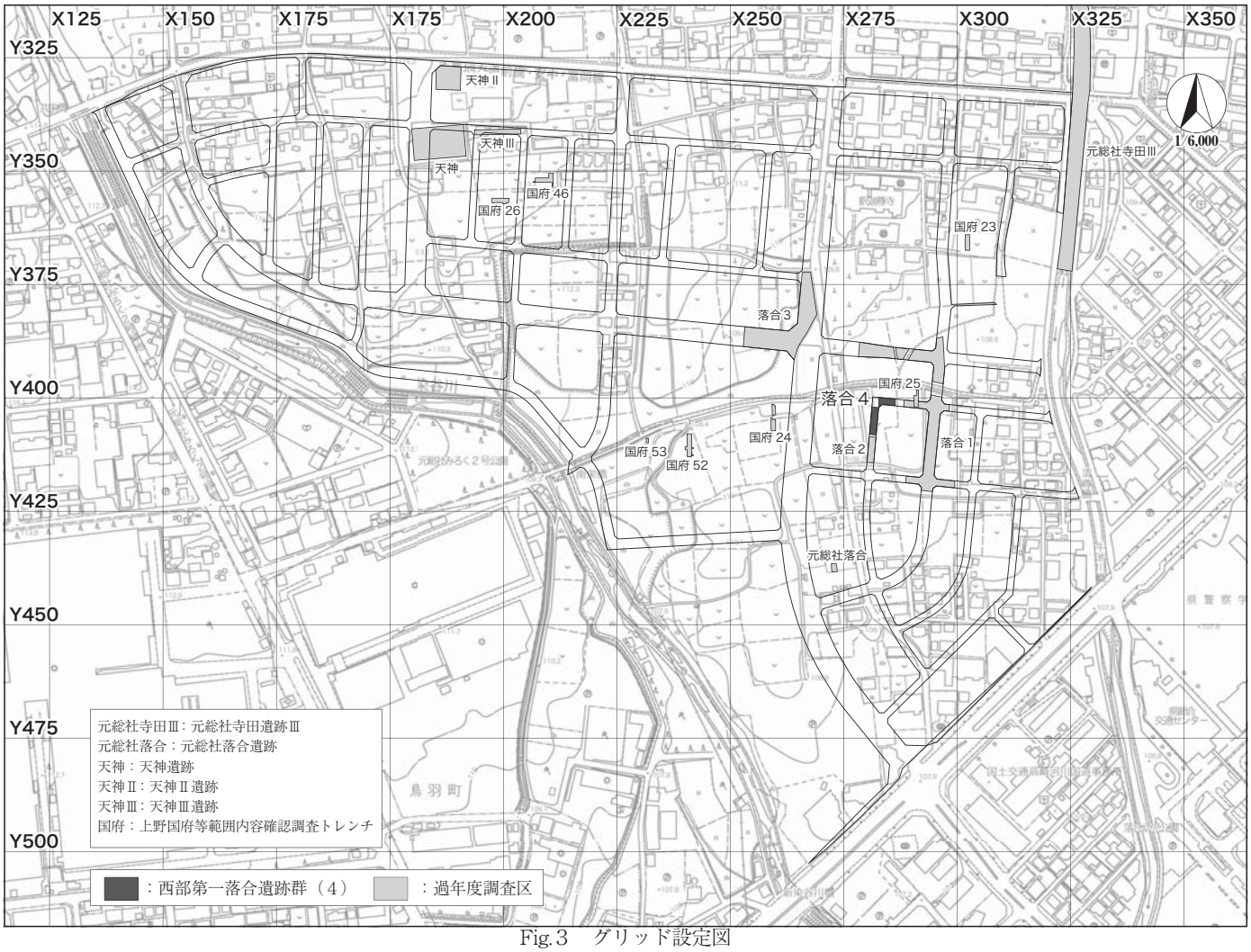


Fig.3　グリッド設定図

Tab. 2　西部第一落合遺跡群周辺遺跡一覧表

遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・遺物
天神遺跡	1986	**奈良・平安**：住居跡、井戸、土坑　◇白磁・青磁・灰釉陶器
天神Ⅱ遺跡	1989	**奈良・平安**：住居跡、井戸、土坑　◇土師器・須恵器・石器
元総社寺田遺跡Ⅲ	1996	**縄文**：土坑　**弥生**：住居跡　**古墳**：住居跡、水田、畠　**奈良・平安**：住居跡、井戸、土坑、溝、河道跡　**中世**：蒼海城外堀、井戸　**近世・近代**：土坑、井戸、畠　◇船形木製品・墨書土器（国厨・国・厨他）・漆付着土器・顔料付着土器・緑釉陶器・灰釉陶器・白磁・硯（円面・風字・転用）・人形・形代（馬形・刀形・琴柱形）・斎串・横櫛・漆器・軟質陶器・青磁・石塔・人骨・獣骨
天神Ⅲ遺跡	2008	**奈良・平安**：住居跡、掘立柱建物跡、道路状遺構　**中世以降**：堀・溝　◇八稜鏡・緑釉陶器・大型円面硯・須恵器香炉
上野国府等範囲内容確認調査トレンチ 23	2013	**平安**：住居跡、溝、土坑、ピット　◇黒色土器高台埦、灰釉陶器、軟質土器
上野国府等範囲内容確認調査トレンチ 24	2013	**中世**：溝、土坑　**近世以降**：溝（芦田堰の一部ヵ）　◇土師器・須恵器・軟質陶器・常滑焼・獣骨
上野国府等範囲内容確認調査トレンチ 25	2013	**平安**：溝　**中世**：土坑、ピット、落ち込み　◇墨書土器（木・本）・刻書土器（五芒星）・灰釉陶器・獣骨
上野国府等範囲内容確認調査トレンチ 26	2013	**平安**：住居跡、溝　**中世**：道路状遺構　◇暗文坏・灰釉陶器・漆付着土器・羽口
元総社落合遺跡	2014	**奈良・平安**：住居跡、土坑　◇縄文土器（堀之内式）・土師器・須恵器
上野国府等範囲内容確認調査トレンチ 46	2016	**古墳**：住居跡（4世紀代）　**奈良・平安**：住居跡、溝、土坑、ピット　**中世**：溝、土坑、ピット群（掘立柱建物跡）　◇台付甕・灰釉陶器・緑釉陶器・古銭（隆平永宝ヵ）
上野国府等範囲内容確認調査トレンチ 52	2018	**中世**：溝、ピット　**時期不明**：道路状遺構　◇灰釉陶器・黒色土器・青磁・茶臼
上野国府等範囲内容確認調査トレンチ 53	2018	**近世**：染谷川旧流路ヵ
西部第一落合遺跡群（1）	2020	**古墳**：畠跡　**平安**：竪穴建物跡、溝、井戸、土坑　**中世**：蒼海城外堀　◇瓦（刻書「大田」）灰釉陶器・緑釉陶器・鉄製品・銅製品（刀柄頭ヵ）・陶磁器・石塔・石鏃
西部第一落合遺跡群（2）	2021	**古墳**：畠跡　**飛鳥～平安**：竪穴建物跡、土坑　**中世**：井戸、土坑、ピット　◇緑釉陶器・灰釉陶器
西部第一落合遺跡群（3）	2021	**平安**：溝、井戸、土坑、採掘坑　**中世**：溝・堀、掘立柱建物跡、井戸、土坑、ピット　**近世以降**：畠跡、道路状遺構
西部第一落合遺跡群（4）	2021	**古墳**：溝　**奈良・平安**：竪穴建物跡、墓壙、土坑　**中世**：井戸　◇巡方、丸鞆、緑釉陶器・灰釉陶器

Ⅲ　調査方針と経過

委託調査箇所は前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業地内であり、調査面積は 272 ㎡である。グリッド座標については近隣調査との整合性や以後の拡張性を考慮して元総社蒼海遺跡群の調査で使用されている任意グリッド座標（国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X＝ 44000.000、Y＝－ 72200.000 を基点とする４ｍピッチのもの）を使用した。なお経線をＸ、緯線をＹとして北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標は次のとおりである。

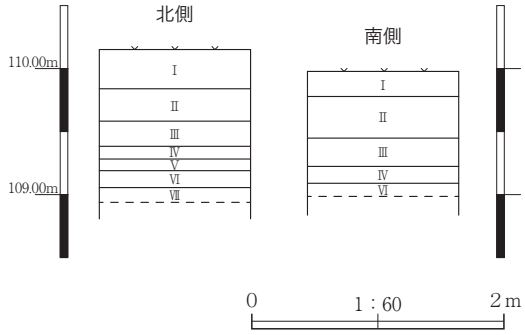
測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系　測地成果 2011）
X 283、Y 405	X＝ 42,380.000 m、Y＝－ 71,068.000 m	X＝ 42,734.9272 m、Y＝－ 71,359.7778 m

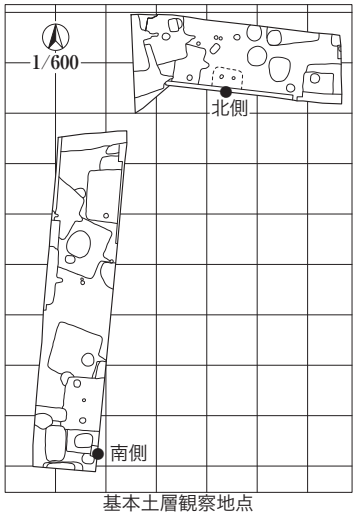
発掘調査は重機で包含層（Ⅲ層）上面まで掘り下げ、包含層の遺物採取のため、人力で遺構確認面であるⅣ層上面まで掘り下げた。遺構確認作業において耕作跡を確認した。この耕作跡はⅡ層を掘りこんでいるため近現代に掘削されたものと考えられる。深さはⅡ層上面から 70cm 程度。底面に鉄分が沈着して暗赤褐色に変色するため耕作跡が縞模様となり、遺構確認が非常に困難であった。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものは No 遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は 35mm 判 モノクロ・リバーサルフィルムと、デジタルカメラの３種類を用いて撮影を行った。調査区全景撮影についてはドローンを使用した。

調査経過については以下の通りである。重機による表土掘削・排土置き場及び駐車場の整地（10 月 12 ～ 15 日）、包含層の掘り下げ調査（10 月 14 ～ 25 日）、遺構確認調査（10 月 25 日～）、調査区全景撮影（11 月 11 日）、Ⅳ層掘り下げ調査（11 月 11 日～）。11 月 19 日埋め戻し作業を完了し、29 日に現地での作業を終了した。

Ⅳ　基本土層

基本土層は調査区北側（T － 1 の側壁面）と南側（H － 15 の側壁面）にて観察を行った（Fig. 4 ）。Ⅰ層土は現代の表土層、Ⅱ層土は暗褐色の As-B 混土層である。Ⅲ・Ⅳ層土は暗褐色土に焼土粒・炭化物を主に含み、土器片も混入する包含層である。Ⅴ層土は As-C を含む黒色土、いわゆる「C 黒」と呼称される土層である。W － 2 周辺では「C 黒」上面において部分的に Hr-FA を含む洪水堆積層が見られる。Ⅵ～Ⅶ層は非常に粘性の高い粘質土層である。





基本土層観察地点

基本土層
Ⅰ　表土層
Ⅱ　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。As-B 混土層主体。炭化物・焼土粒・土器片を微量に含む。
Ⅲ　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土粒を少量、土器片を含む。
Ⅳ　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量、土器片を含む。
Ⅴ　黒褐色土（10YR2/2）　締まり有り、粘性有り。As-C 混土層。
Ⅵ　暗褐色土（10YR3/3）　締まり強い、粘性強い。粘質土。
Ⅶ　黒褐色土（10YR2/2）　締まり強い、粘性強い。粘質土。
Ⅷ　褐灰色土（10YR5/1）　締まり強い、粘性強い。粘質土。

Fig. 4　基本層序

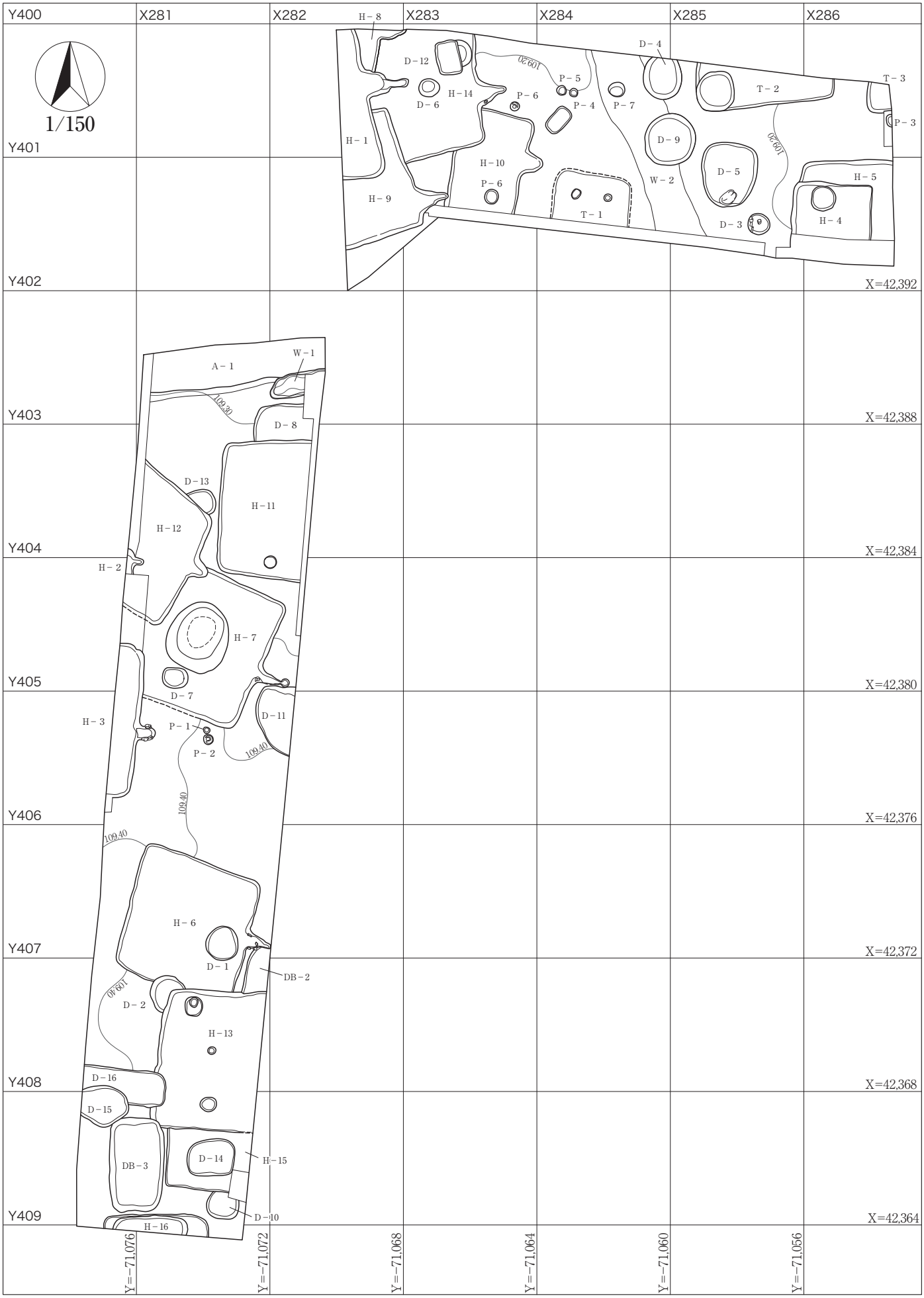

Y400
X281
X282
X283
X284
X285
X286
1/150
Y401
Y402
Y403
Y404
Y405
Y406
Y407
Y408
Y409
X=42,392
X=42,388
X=42,384
X=42,380
X=42,376
X=42,372
X=42,368
X=42,364
Y=−71,076
Y=−71,072
Y=−71,068
Y=−71,064
Y=−71,060
Y=−71,056
H−8
D−12
D−6
H−14
P−6
P−5
P−4
P−7
D−4
T−2
T−3
P−3
H−1
H−10
H−9
D−9
W−2
D−5
D−3
H−5
H−4
T−1
109.20
A−1
W−1
D−8
D−13
H−11
H−12
H−2
H−7
D−7
D−11
H−3
P−1
P−2
109.40
H−6
D−1
DB−2
D−2
H−13
D−16
D−15
DB−3
D−14
H−15
D−10
H−16

Fig. 5　調査区全体図

Ⅴ　遺構と遺物

１　竪穴建物跡

Ｈ－１号竪穴建物跡（Fig. ６・17、Tab. ４、PL. ２・６）

位置　X282・283、Y400・401　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ　**規模**　東西軸（1.22）m、南北軸（4.50）m　壁高 0.30 m　**床面積**（4.78）㎡　**床面**　地山床　**重複**　Ｈ－８・９・14 と重複。本遺構はＨ－８・９・14 より新しい。　**カマド**　東壁中央に位置。隅丸長方形の燃焼部には炭化物・灰が少量広がる。燃焼部壁面が部分的に焼土化している。煙道は燃焼部から緩やかに上がり、側壁が焼土化している。　**出土遺物**　須恵器埦（１・２）、土師器坏（３）、羽釜（４）を図示。その他に須恵器坏、土師器甕、鉄釘が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－２号竪穴建物跡（Fig. ８・９、PL. ２）

位置　X201・202、Y403・404　**主軸方向**　Ｎ－94°－Ｗ　**規模**　カマド煙道部のみ検出。東西軸（0.52）m、南北軸（0.77）m　壁高 0.25 m　**床面積**（0.21）㎡　**床面**　確認できず　**重複**　Ｈ－12 と重複。本遺構はＨ－12 より新しい。　**カマド**　東壁に位置する。燃焼部底面には炭化物・灰、覆土中には焼土粒が確認できる。　**出土遺物**　須恵器・土師器の坏・甕が少量出土している。　**時期**　重複関係から 10 世紀と想定される。

Ｈ－３号竪穴建物跡（Fig. ８・９・17、Tab. ４、PL. ２・６）

位置　X280・281、Y404・405　**主軸方向**　Ｎ－80°－Ｗ　**規模**　東西軸（0.83）m、南北軸 4.66 m　壁高 0.44 m　**床面積**（3.67）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　Ｈ－７と重複。本遺構はＨ－７より新しい。　**カマド**　東壁中央に位置。燃焼部側壁には長方形状の総社砂層切り石が補強材として２つ立つ。　**出土遺物**　須恵器埦（１）・坏（２）、土師器甕（３）を図示。その他に灰釉陶器埦や羽釜が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から９世紀後半から 10 世紀初頭頃と想定される。

Ｈ－４号竪穴建物跡（Fig. ７、PL. ２）

位置　X285・286、Y401　**主軸方向**　Ｎ－３°－Ｅ　**規模**　東西軸 2.38 m、南北軸（2.01）m　壁高 0.25 m　**床面積**（3.83）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　Ｈ－５と重複。本遺構はＨ－５より新しい。　**カマド**　確認できず　**施設**　円形の土坑を１基確認。　**出土遺物**　灰釉陶器埦、須恵器・土師器の坏・甕が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から 10 世紀と想定される。

Ｈ－５号竪穴建物跡（Fig. ７、PL. ２）

位置　X285・286、Y401　**主軸方向**　Ｎ－３°－Ｅ　**規模**　東西軸 2.76 m、南北軸（2.80）m　壁高 0.24 m　**床面積**（2.98）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　Ｈ－４と重複。本遺構はＨ－４より古い。　**カマド**　調査区南壁トレンチにて断面に焼土の広がりが見えることから、東壁（調査区外）にカマドが想定される。　**出土遺物**　灰釉陶器埦、須恵器・土師器の坏・甕が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から 10 世紀と想定される。

Ｈ－６号竪穴建物跡（Fig.10・17、Tab. ４、PL. ２・６）

位置　X280・281、Y406・407　**主軸方向**　Ｎ－69°－Ｗ　**規模**　東西軸 3.70 m、南北軸 3.89 m　壁高 0.16 m　**床面積**（14.16）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　Ｈ－13 と重複。本遺構はＨ－13 より新しい。　**カマド**　東壁中央に位置。燃焼部側壁に総社砂層の切り石が立ち、補強材としている。　**出土遺物**　灰釉陶器埦（１）、須恵器埦（２）を図示。その他に須恵器皿、土師器の坏・甕が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－７号竪穴建物跡（Fig. ８・９・17・18、Tab. ４、PL. ３・６）

位置　X280 ～ 282、Y403 ～ 405　**主軸方向**　Ｎ－65°－Ｗ　**規模**　東西軸 4.13 m、南北軸 4.27 m　壁高 0.16 m　**床面積**（15.92）㎡　**床面**　粘質土を充填し張り床としている。　**重複**　Ｈ－３・12 と重複。本遺構はＨ－

12より新しく、H－3より古い。　**カマド**　東壁中央に位置。前庭部に天井崩落土が確認できる。燃焼部から煙道にかけての側壁が被熱し焼土化している。　**出土遺物**　灰釉陶器小瓶（1）、須恵器埦（2～4）、須恵器坏（5）、土師器甕（6）、銅製巡方（7）、石製丸鞆（8）を図示。その他に灰釉陶器埦、須恵器甕、土師器坏が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から9世紀後半と想定される。

H－8号竪穴建物跡（Fig. 6、PL. 3）

位置　X282・283、Y400　**主軸方向**　N－85°－W　**規模**　東西軸（0.78）m、南北軸（1.28）m　壁高0.12 m　**床面積**（0.87）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　H－1・14と重複。本遺構はH－14より新しく、H－1より古い。　**カマド**　調査区壁際で1/2確認。燃焼部に炭化物・灰が確認できる。　**出土遺物**　須恵器・土師器の坏・甕が少量出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から9世紀後半と想定される。

H－9号竪穴建物跡（Fig. 6・7・18、Tab. 4、PL. 3・6）

位置　X282・283、400・401　**主軸方向**　N－74°－E　**規模**　東西軸（2.56）m、南北軸3.76 m　壁高0.27 m　**床面積**（5.65）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　H－1・10・14と重複。本遺構はH－1・10・14より古い。　**カマド**　東壁南隅に位置。燃焼部付近に炭化物・灰が多量に確認できる。煙道は燃焼部から緩やかに上がりながら東側へ延びる。　**出土遺物**　須恵器坏（1・2）、土師器甕（3）を図示。その他に須恵器甕・瓶類、土師器坏が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から9世紀中頃と想定される。

H－10号竪穴建物跡（Fig. 7・18、Tab. 4、PL. 3・6）

位置　X283・284、Y400・401　**主軸方向**　N－75°－W　**規模**　東西軸2.14 m、南北軸3.01 m　壁高0.06 m　**床面積**（5.80）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　H－14と重複。本遺構はH－14より新しい。　**カマド**　東壁に位置。楕円形を呈する燃焼部底面には炭化物・灰が僅かに確認できる。　**出土遺物**　須恵器小皿（1）、土師器坏（2）、羽釜（3）を図示。その他に灰釉陶器埦が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から10世紀中頃と想定される。

H－11号竪穴建物跡（Fig. 8・9・18、Tab. 4、PL. 3・7）

位置　X281・282、Y403・404　**主軸方向**　N－80°－W　**規模**　東西軸（2.70）m、南北軸4.17 m　壁高0.16 m　**床面積**（10.51）㎡　**床面**　粘質土を充填し張り床としている。　**カマド**　確認できず　**施設**　ピット1基確認。　**出土遺物**　須恵器埦（1）、羽釜（2）を図示。その他に灰釉陶器埦、須恵器・土師器の坏・甕が出土している。　**時期**　出土遺物から10世紀と想定される。

H－12号竪穴建物跡（Fig. 8～10・18・19、Tab. 4、PL. 4・7）

位置　X280・281、Y403・404　**主軸方向**　N－46°－W　**規模**　東西軸（2.78）m、南北軸3.86 m　壁高0.21 m　**床面積**（7.43）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　H－2・7と重複。本遺構はH－2・7より古い。　**カマド**　東壁中央に位置。　**出土遺物**　土師器甕（1～3）を図示。その他に須恵器・土師器の坏が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から8世紀と想定される。

H－13号竪穴建物跡（Fig.10・11・19、Tab. 4、PL. 7）

位置　X281、Y407・408　**主軸方向**　N－83°－W　**規模**　東西軸（3.07）m、南北軸4.18 m　壁高0.32 m　**床面積**（12.78）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　H－6・15と重複。本遺構はH－15より新しく、H－6より古い。　**カマド**　確認できず　**施設**　土坑2基、ピット1基確認。　**出土遺物**　須恵器埦（1・2）、羽釜（3）を図示。その他に須恵器瓶類、土師器の坏・甕が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から10世紀初頭と想定される。

H－14号竪穴建物跡（Fig. 6・7・19、Tab. 4、PL. 4・7）

位置　X282・283、Y400・401　**主軸方向**　N－74°－E　**規模**　東西軸（3.31）m、南北軸3.80 m　壁高0.16 m　**床面積**（10.45）㎡　**床面**　粘質土を充填し張り床としている。　**重複**　H－1・8～10と重複。本遺構は

H－1・8・9より新しく、H－10より古い。　**カマド**　東壁に位置。炭化物・灰が僅かに確認できる。煙道は燃焼部から緩やかに上がる。　**施設**　土坑1基確認。カマド脇にあるため貯蔵穴の可能性が考えられる。　**出土遺物**　須恵器坏（1）、羽釜（2）を図示。その他に須恵器甕、土師器坏が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から9世紀末～10世紀初頭と想定される。

H－15号竪穴建物跡（Fig.10・11）

位置　X281、Y408　**主軸方向**　N－81°－W　**規模**　東西軸（2.54）m、南北軸（1.81）m　壁高0.09 m　**床面積**（4.13）㎡　**床面**　地山硬化床　**重複**　H－13と重複。本遺構はH－13より古い。　**カマド**　確認できず　**出土遺物**　灰釉陶器椀、須恵器・土師器の坏・甕が出土している。　**時期**　出土遺物から9世紀と想定される。

H－16号竪穴建物跡（Fig.11）

位置　X280・281、Y408・409　**主軸方向**　N－89°－E　**規模**　東西軸3.14 m、南北軸（0.68）m　壁高0.26 m　**床面積**（1.64）㎡　**床面**　地山硬化床　**出土遺物**　須恵器・土師器の坏・甕が少量出土している。　**時期**　南側に隣接する西部第一落合遺跡群（2）H－2と同一遺構と考えられることから、8世紀後半と想定される。

2　竪穴状遺構

T－1号竪穴状遺構（Fig.11、PL. 4）

位置　X286、Y400　**主軸方向**　N－8°－E　**規模**　東西軸2.36 m、南北軸（1.49）m　壁高0.02 m　**床面積**（3.43）㎡　**床面**　粘質土を充填し張り床としている。　**出土遺物**　混入遺物と考えられる灰釉陶器や須恵器の小片が少量出土している。　**時期**　覆土中にAs-B混土を含むことから中世と想定される。

T－2号竪穴状遺構（Fig.11・19、Tab. 4、PL. 4・7）

位置　X284、Y401　**主軸方向**　N－4°－W　**規模**　東西軸4.13 m、南北軸（1.48）m　壁高0.17 m　**施設**　南西隅に土坑1基。　**床面積**（4.22）㎡　**床面**　地山硬化床　**出土遺物**　土師器坏（1・2）を図示。その他に灰釉陶器椀や須恵器坏が少量出土している　**時期**　出土遺物から10世紀と想定される。

T－3号竪穴状遺構（Fig.11、PL. 4）

位置　X286、Y400　**主軸方向**　N－3°－E　**規模**　東西軸0.70 m、南北軸0.92 m　壁高0.23 m　**床面積**（0.58）㎡　**床面**　地山硬化床　**出土遺物**　須恵器・土師器が少量出土している。　**時期**　出土遺物も少ないため判然としないが9・10世紀代と想定される。

3　道路状遺構

A－1号道路状遺構（Fig. 8・9、PL. 1）

位置　X281・282、Y402　**主軸方向**　N－81°－E　**規模**　確認長5.53 m、幅（1.26）m　**硬化面**　全体的に硬化面が確認できる。　**重複**　W－1（中世）と重複。本遺構はW－1より古い。　**出土遺物**　須恵器・土師器の坏・甕が少量出土している。　**時期**　重複関係から平安時代と想定される。

4　墓壙

DB－1号土壙墓（Fig.12）

位置　X284、Y400　**主軸方向**　N－42°－E　**規模**　隅丸長方形を呈する。長軸0.86 m、短軸0.51 m　壁高0.07 m　**出土遺物**　人骨1点出土。土器は出土していない。　**時期**　覆土中にAs-B混土を含むことから中世と想定される。

DB－2号土壙墓（Fig.10～12、PL. 7）

位置　X281・282、Y406・407　**主軸方向**　N－12°－E　**規模**　隅丸長方形を呈する。長軸（1.52）m、短軸（0.70）m　壁高0.14 m　**重複**　H－6・13と重複。本遺構はH－6・13より新しい。　**出土遺物**　人骨1点出土。その他に混入遺物と考えられる10世紀代の灰釉陶器・須恵器の椀が出土している。　**時期**　覆土中にAs-B混土を含むことから中世と想定される。

DB－３号木棺墓（Fig.12～14・19、Tab. 4、PL. 5・7）

位置　X280・281、Y408　**主軸方向**　N－1°－W　**規模**　隅丸長方形を呈する。長軸 2.82 m、短軸 1.63 m 壁高 0.49 m　**構造**　側面は５～20cm の川原石を用いて組み上げている。木棺が収まり易いように面を揃えようとしている造作が窺える。底面には 30cm 大の扁平な川原石を並べ平坦に敷き、隙間には小石を詰めている　**木棺**　推定規模は長さ 2.08 m、幅 0.60 m、高さ 0.47 m[(1)]。　**重複**　H－13 と重複。本遺構は H－13 より新しい。**出土遺物**　灰釉陶器埦（１）、小埦（２）、須恵器坏（３）を図示。鉄釘が多く出土している（16 点。断面角状。少片含む）。そのほとんどが石組み側壁近くからの出土であること、木質を含んで錆化していることから木棺に打たれていた釘であると考えられる。その他に灰釉陶器埦や須恵器埦・坏の破片が多く出土している。残存率の高い遺物は出土分布が北側底面付近に集中していることから、被葬者の頭部付近に埋納された土器の可能性が高い。人骨の出土はない。　**時期**　出土遺物から 10 世紀前半頃と推定される。　**備考**　検出当初は石組みの井戸や古墳の石室の可能性を考えたが、灰釉陶器・須恵器や鉄釘の出土状況から土壙墓と認定。また側面部に石を組み、底面に扁平な石を敷いていることから、礫槨木簡墓と想定した。

5　溝・井戸・土坑・ピット（Fig. 8・9・12・14～16・19～21、Tab. 3・4、PL. 3・4・7・8）

各遺構の計測値は「Tab. 3　遺構計測表」を参照。I－2、D－1・2、P－1・2・6は覆土中に As-B 混土が混入するため中世に帰属すると想定される。D－3は壁上面が焼土化し総社砂層の柱状ブロックや瓦の破片が出土している。炉跡の可能性が考えられる。

註
1．木棺の高さは現代の棺の一般的な規格（長さ 1.80× 幅 0.48× 高さ 0.41 m）の比率から算出している。あくまでも参考値。

Tab. 3　遺構計測表

溝

遺構名	グリッド	主軸方向	確認長 (m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ（m）	断面形状	備考
W－1	X281・282、Y402	N－71°－E	1.66	0.70	0.60	0.15	逆台形	中世。覆土に As-B 混土を含む。
W－2	X284・285、Y400・401	N－19°－W	6.20	1.65	0.50	0.38	弧状	古墳時代。覆土に As-C 混土･Hr-FA 洪水層土を含む。

井戸

遺構名	グリッド	長軸（m）	短軸（m）	確認深度（m）	平面形状	出土遺物	備考
I－2	X281、Y404	2.05	1.77	0.91	楕円形	灰釉陶器、緑釉陶器、須恵器	中世

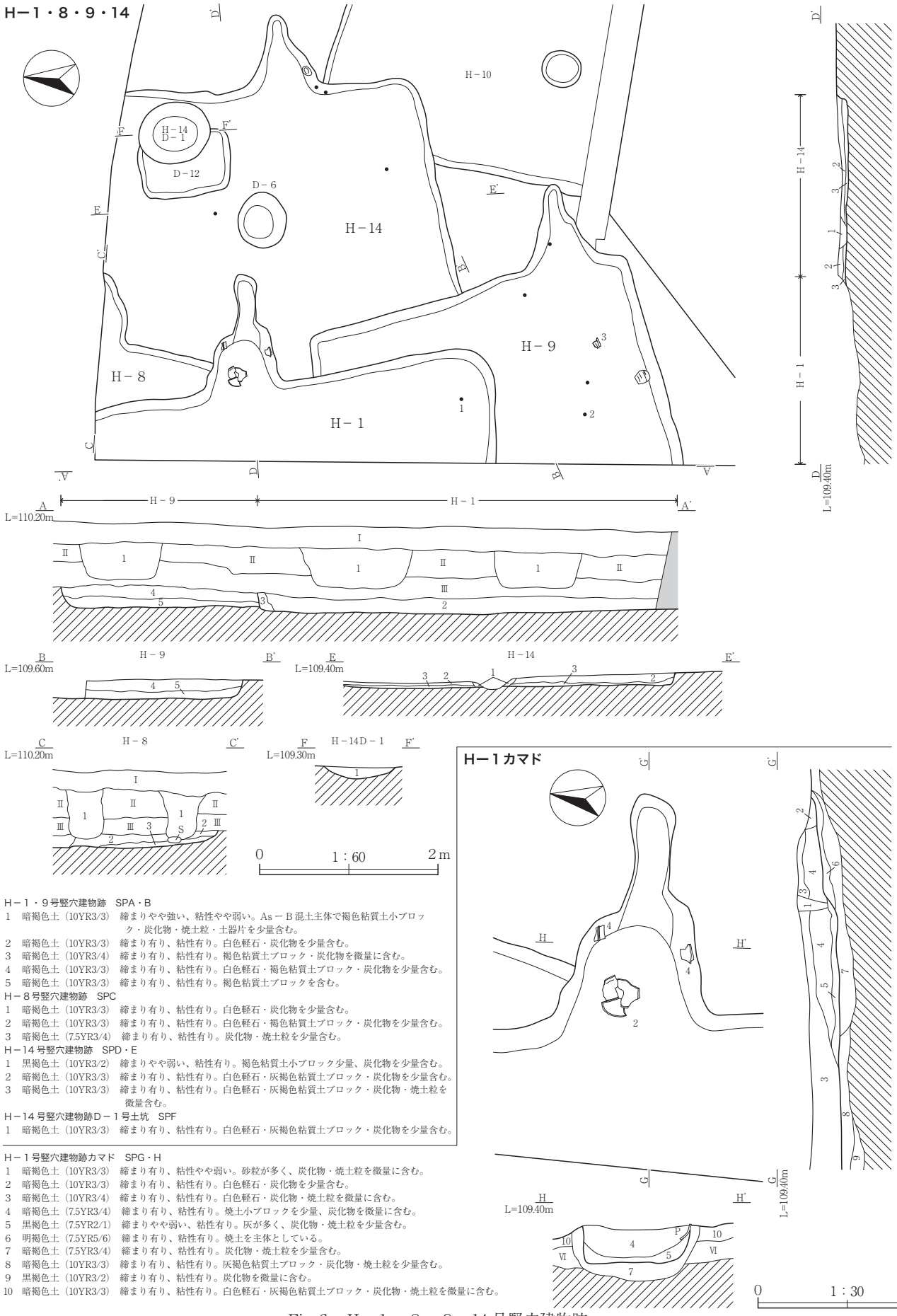
※I－1は欠番。

土坑

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考
D－1	X281、Y406・407	1.03	0.96	0.31	円形	中世
D－2	X281、Y407	1.11	1.05	0.14	円形	中世
D－3	X285、Y401	0.66	0.62	0.18	円形	炉跡ヵ
D－4	X284・285、Y400	(1.23)	1.15	0.35	楕円形	
D－5	X285、Y400・401	1.93	1.68	0.14	楕円形	
D－6	X283、Y400	0.62	0.54	0.17	円形	
D－7	X281、Y404	0.77	0.61	0.51	長楕円形	
D－8	X281・282、Y402・403	(1.95)	(1.10)	0.17	長方形	
D－9	X284・285、Y400・401	1.56	1.52	0.22	円形	
D－10	X281、Y408	0.95	(0.81)	0.07	隅丸方形	
D－11	X281・282、Y404・405	2.07	(1.16)	0.14	楕円形	出土土器多量
D－12	X283、Y400	1.02	0.71	0.22	長方形	土壙墓ヵ
D－13	X281、Y403	1.02	0.81	0.09	隅丸方形	
D－14	X281、Y408	1.43	1.09	0.10	長楕円形	
D－15	X280、Y407・408	(1.43)	1.20	0.25	楕円形	
D－16	X280・281、Y407・408	(2.49)	1.02	0.11	長方形	

ピット

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考
P－1	X281、Y405	0.19	0.19	0.27	円形	中世
P－2	X281、Y405	0.29	0.29	0.32	円形	中世
P－3	X286、Y400	0.38	0.17	0.24	円形	
P－4	X284、Y400	0.25	0.24	0.09	円形	
P－5	X284、Y400	0.30	0.29	0.16	円形	
P－6	X283、Y400	0.27	0.27	0.23	円形	中世
P－7	X284、Y400	0.49	0.43	0.35	楕円形	



H－１・９号竪穴建物跡　SPA・B

1　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性やや弱い。As－B混土主体で褐色粘質土小ブロック・炭化物・焼土粒・土器片を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。褐色粘質土ブロック・炭化物を微量に含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。褐色粘質土ブロックを含む。

H－８号竪穴建物跡　SPC

1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。

H－14号竪穴建物跡　SPD・E

1　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや弱い、粘性有り。褐色粘質土小ブロック少量、炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物・焼土粒を微量含む。

H－14号竪穴建物跡D－１号土坑　SPF

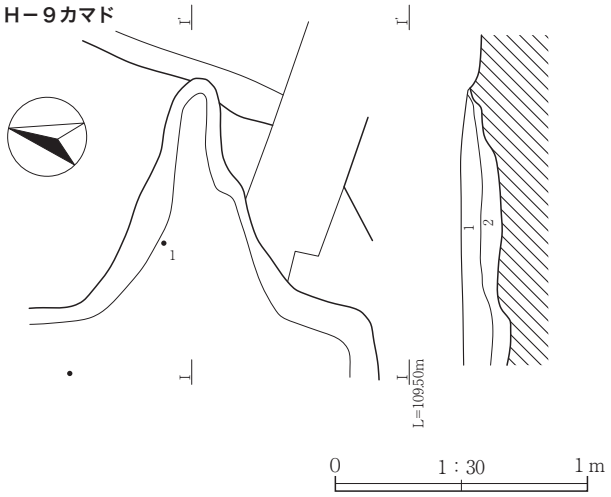
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。

H－１号竪穴建物跡カマド　SPG・H

1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。砂粒が多く、炭化物・焼土粒を微量に含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土粒を微量に含む。
4　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。焼土小ブロックを少量、炭化物を微量に含む。
5　黒褐色土（7.5YR2/1）　締まりやや弱い、粘性有り。灰が多く、炭化物・焼土粒を少量含む。
6　明褐色土（7.5YR5/6）　締まり有り、粘性有り。焼土を主体としている。
7　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。
8　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。灰褐色粘質土ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。
9　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。炭化物を微量に含む。
10　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物・焼土粒を微量に含む。

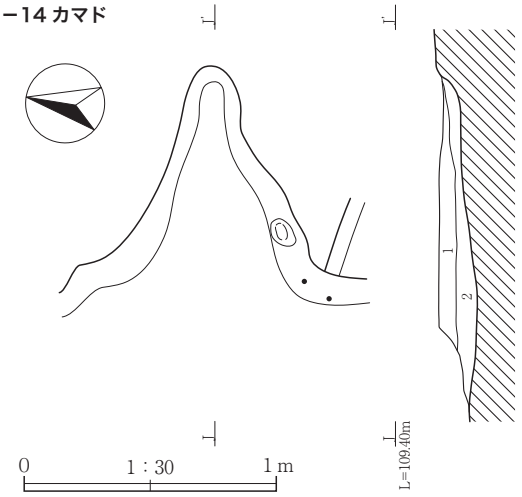
Fig.6　H－１・８・９・14号竪穴建物跡

H－9カマド



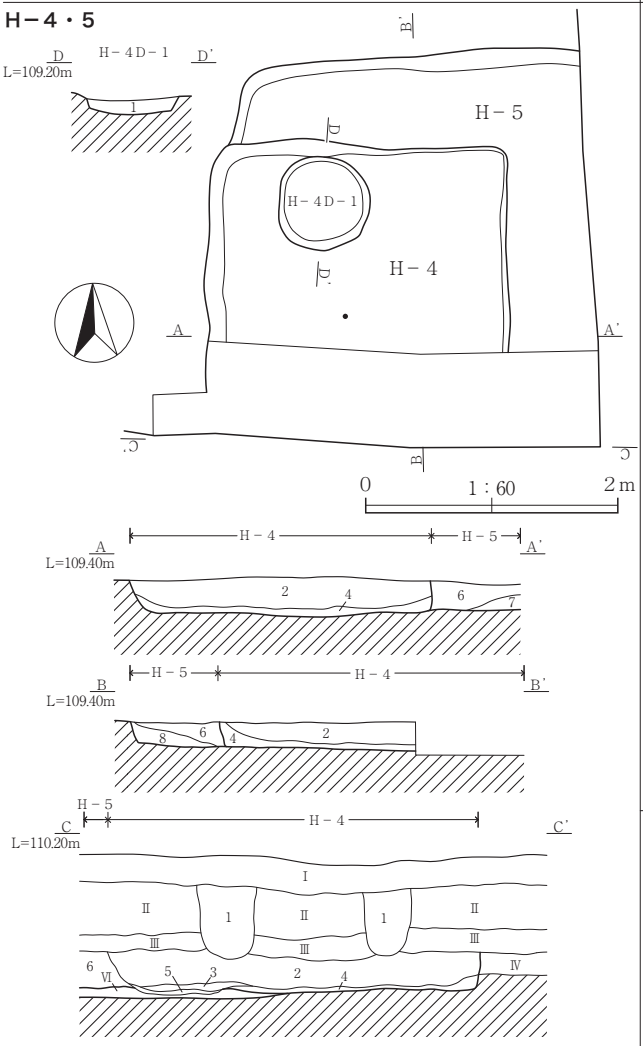
H－9号竪穴建物跡カマド　SPI
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。

H－14カマド



H－14号竪穴建物跡　SPJ
1　暗褐色土（7.5YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土粒を少量含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/3）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。

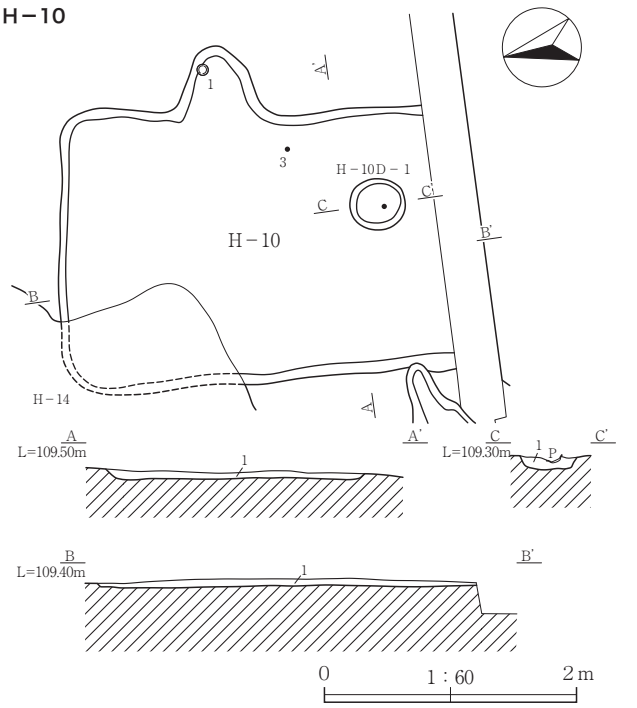
H－4・5



H－4・5号竪穴建物跡　SPA・B・C（2～5層：H－4、6～8層：H－5）
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性やや弱い。As－B混土主体で褐色粘質土小ブロック・炭化物・焼土粒・土器片を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
3　黒褐色土（7.5YR2/1）　締まりやや弱い、粘性有り。灰を主体とし、炭化物・焼土粒を少量含む。
4　褐灰色土（10YR4/1）　締まりやや強い、粘性有り。灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
5　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土粒を微量に含む。H－4カマド燃焼部。
6　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロックを少量含む。
7　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。
8　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。褐色粘質土ブロックを少量含む。

H－4号竪穴建物跡D－1号土坑　SPD
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。

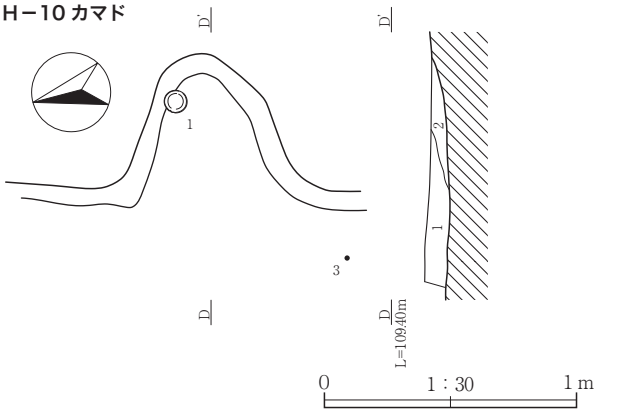
H－10



H－10号竪穴建物跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。

H－10号竪穴建物跡D－1号土坑　SPC
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。

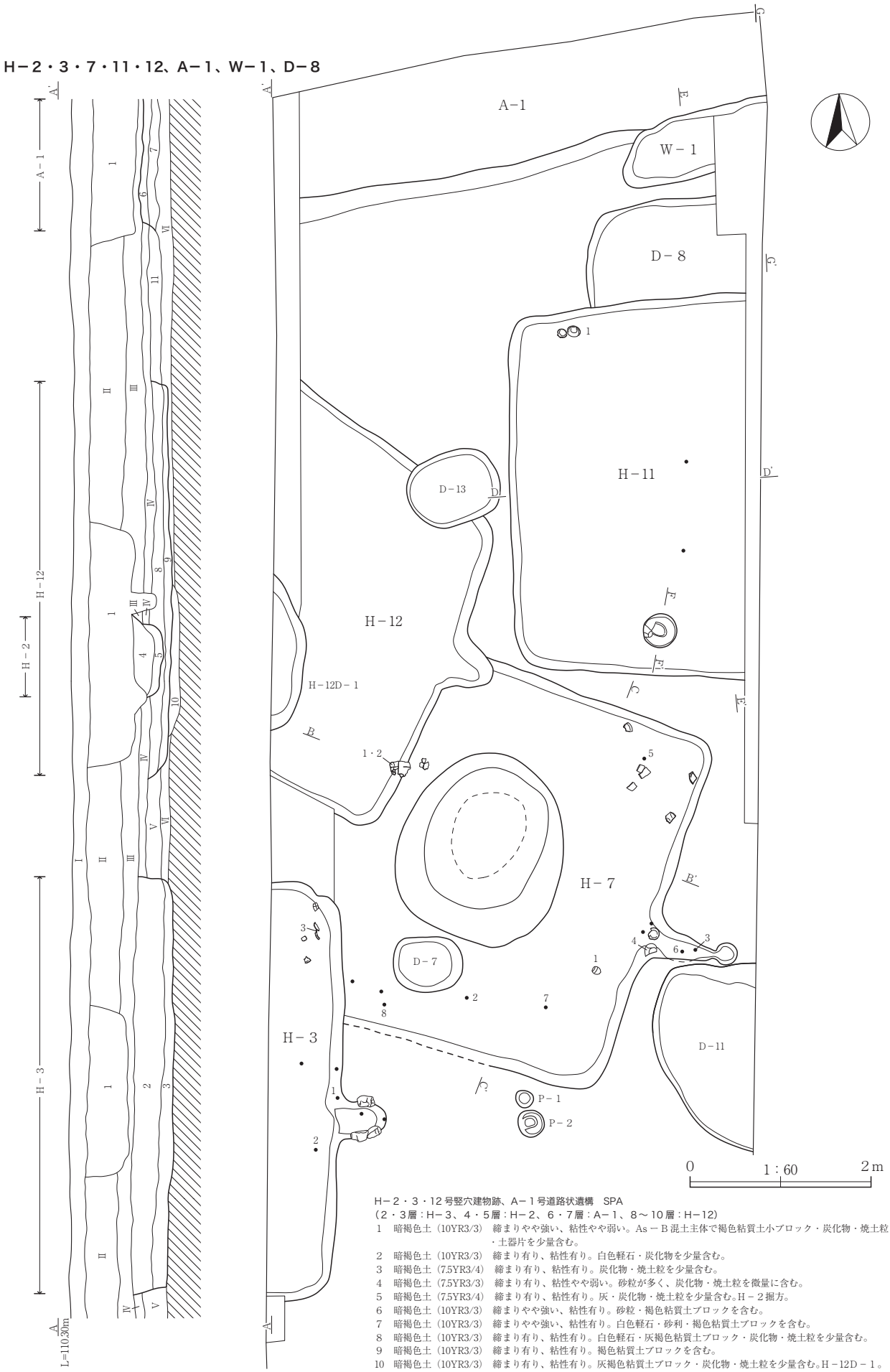
H－10カマド



H－10号竪穴建物跡カマド　SPD
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土粒を少量含む。

Fig.7　H－4・5・9・10・14号竪穴建物跡

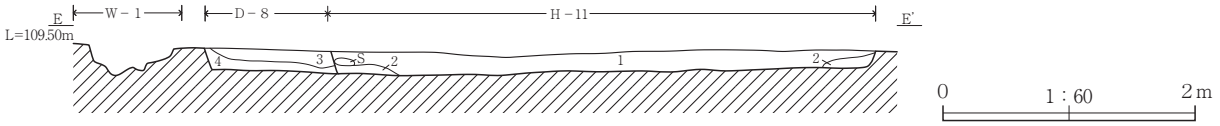
H－2・3・7・11・12、A－1、W－1、D－8

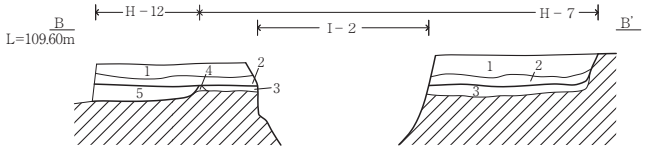


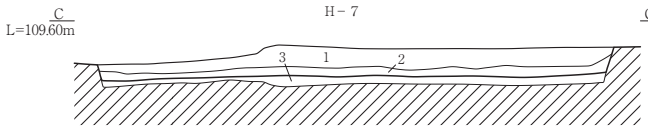
H－2・3・12号竪穴建物跡、A－1号道路状遺構　SPA
（2・3層：H－3、4・5層：H－2、6・7層：A－1、8～10層：H－12）

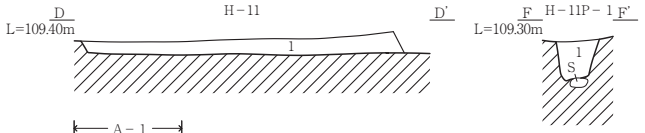
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性やや弱い。As－B混土主体で褐色粘質土小ブロック・炭化物・焼土粒・土器片を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。
4　暗褐色土（7.5YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。砂粒が多く、炭化物・焼土粒を微量に含む。
5　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。灰・炭化物・焼土粒を少量含む。H－2掘方。
6　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性有り。砂粒・褐色粘質土ブロックを含む。
7　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性有り。白色軽石・砂利・褐色粘質土ブロックを含む。
8　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。
9　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。褐色粘質土ブロックを含む。
10　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。灰褐色粘質土ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。H－12D－1。
11　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。

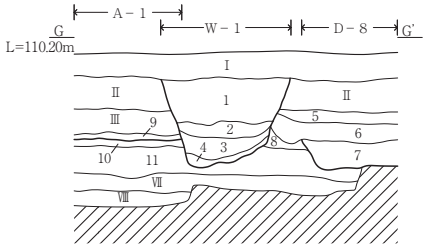
Fig.8　H－2・3・7・11・12号竪穴建物跡、A－1号道路状遺構、W－1号溝、D－8号土坑（1）











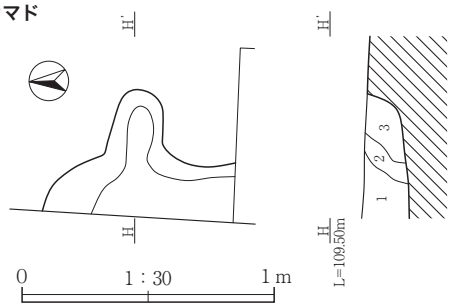
H－7・12号竪穴建物跡　SPB・C（3・4層：H－7、5層：H－12）
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。褐色粘質土ブロックを主体とする。
5　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。

H－11号竪穴建物跡、D－8号土坑　SPD・E（1・2層：H－11、3・4層：D－8）
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロックを少量、炭化物・焼土粒を微量に含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。褐色粘質土ブロックを含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや弱い、粘性有り。褐色粘質土ブロック少量、砂粒・炭化物を微量に含む。
4　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。

H－11号竪穴建物跡P－1号ピット　SPF
1　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。炭化物を含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。灰褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。

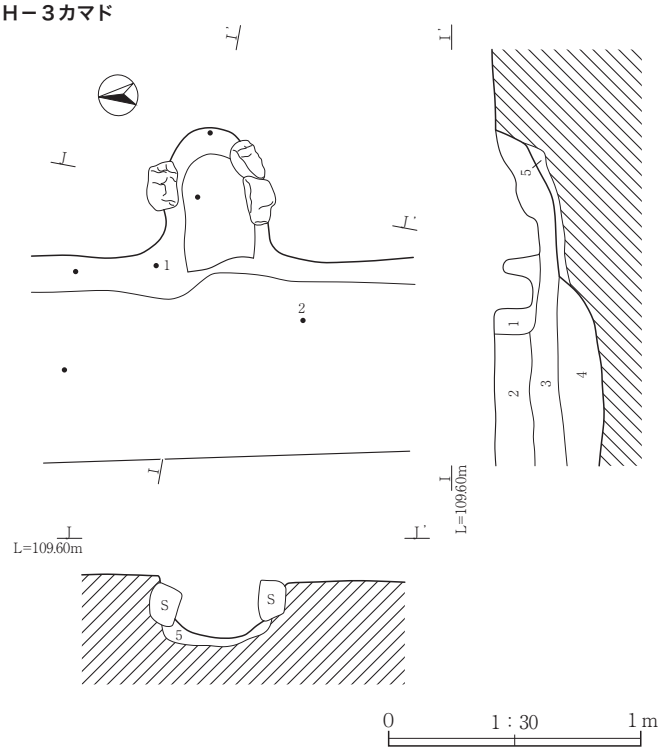
A－1号道路状遺構、W－1号溝、D－8号土坑　SPG
（2～4層：W－1、7層：D－8、10・11層：A－1）
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性やや弱い。As-B混土主体で褐色粘質土小ブロック・炭化物・焼土粒・土器片を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや弱い、粘性有。褐色粘質土小ブロック・炭化物を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロックを少量含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや強い、粘性やや弱い。As-Bの2次堆積層。
6　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや弱い、粘性有り。褐色粘質土ブロック少量、砂粒・炭化物を微量に含む。
8　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石を少量含む。
9　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
10　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性有り。砂粒・褐色粘質土ブロックを含む。
11　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性有り。白色軽石・砂利・褐色粘質土ブロックを含む。

H－2カマド



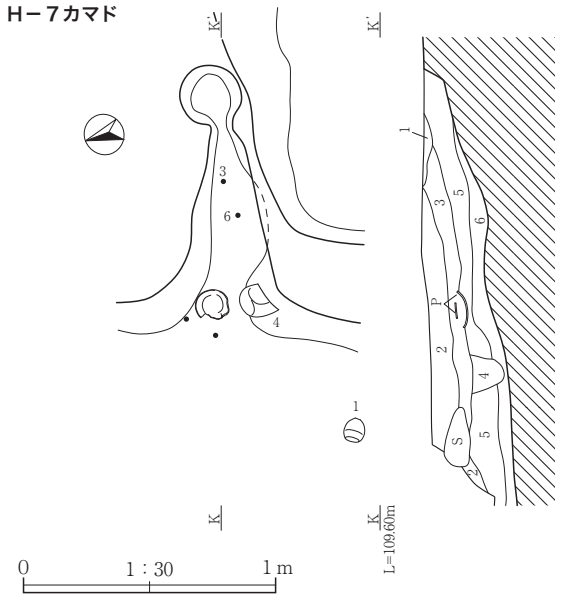
H－2号竪穴建物カマド　SPH
1　暗褐色土（7.5YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。砂粒が多く、炭化物・焼土粒を微量に含む。
2　明褐色土（7.5YR5/6）　締まり有り、粘性有り。焼土を主体としている。
3　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。

H－3カマド



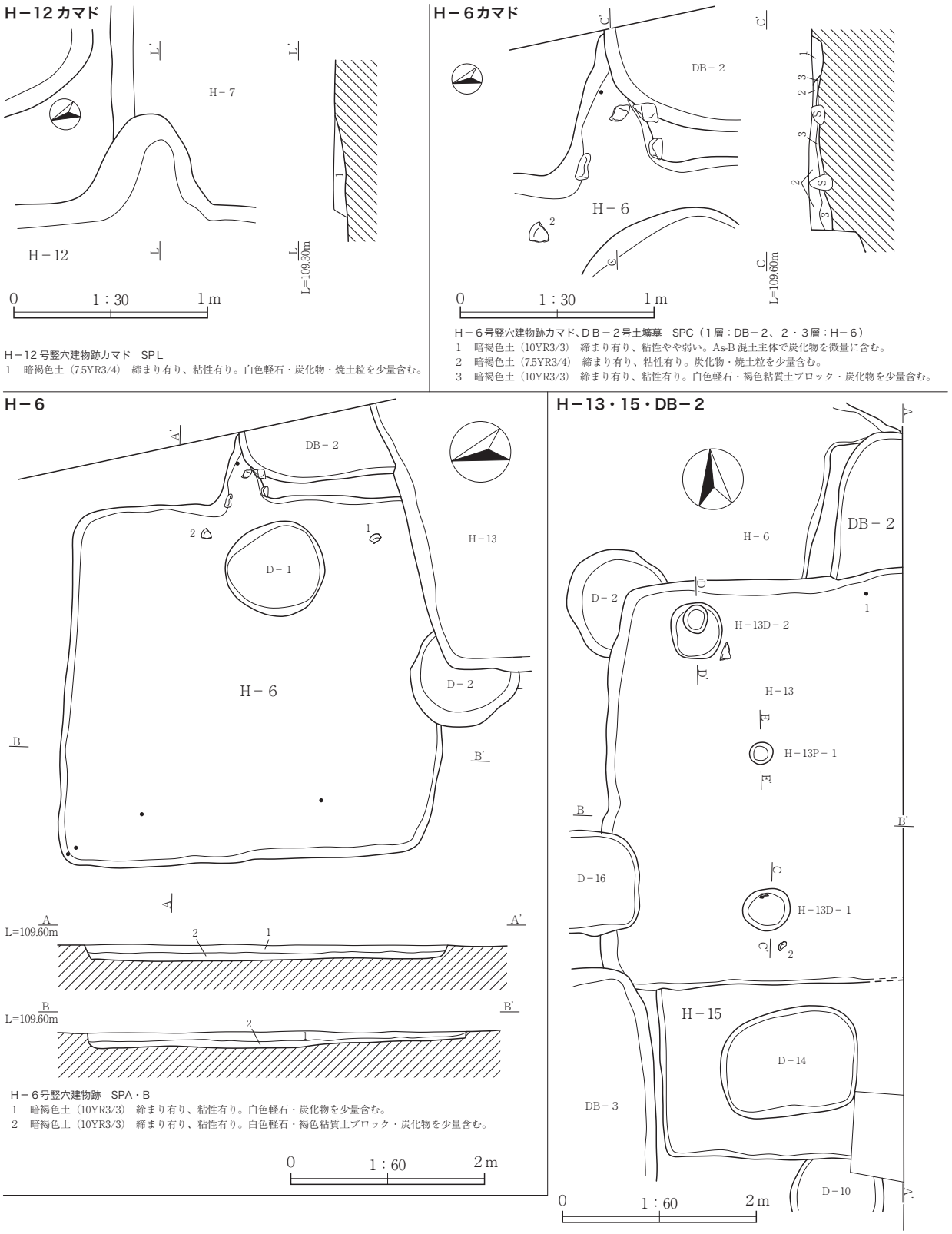
H－3号竪穴建物跡カマド　SPI・J
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性やや弱い。As－B混土主体で褐色粘質土小ブロック・炭化物・焼土粒・土器片を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
5　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土を少量含む。

H－7カマド



H－7号竪穴建物跡カマド　SPK
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。砂粒が多く、炭化物・焼土粒を微量に含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。砂粒が多く、炭化物・焼土粒を微量に含む。
5　褐色土（7.5YR4/6）　締まり有り、粘性有り。焼土を主体としている。天井崩落土。
6　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土を少量含む。

Fig.9　H－2・3・7・11・12号竪穴建物跡、A－1号道路状遺構、W－1号溝、D－8号土坑（2）

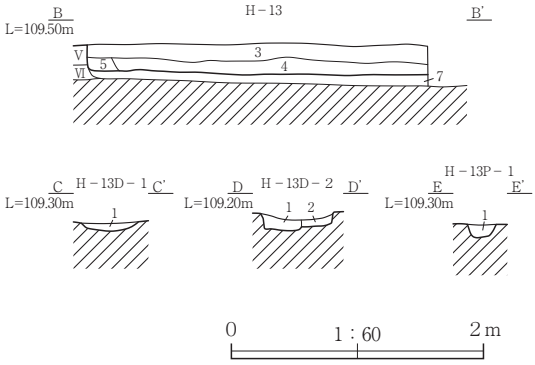


H－12 号竪穴建物跡カマド　SPL
1　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土粒を少量含む。

H－6 号竪穴建物跡カマド、DB－2 号土壙墓　SPC（1 層：DB－2、2・3 層：H－6）
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。As-B 混土主体で炭化物を微量に含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。

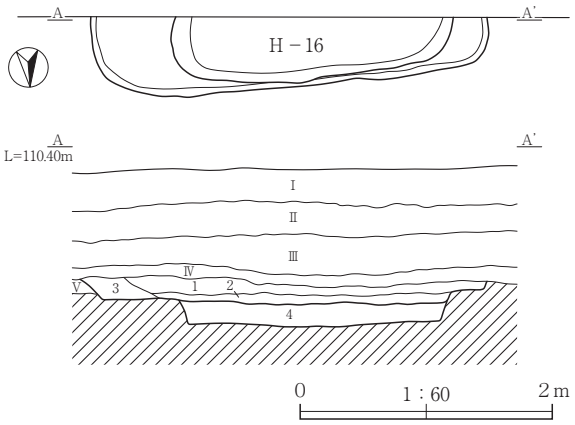
H－6 号竪穴建物跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。

Fig.10　H－6・12・13・15 号竪穴建物跡、DB－2 号土壙墓



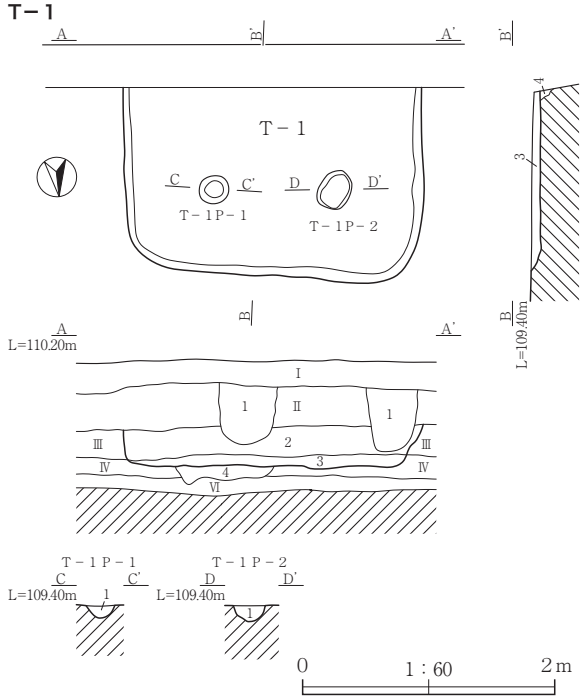
H－13・15 号竪穴建物跡、D B－２号土壙墓　SPA・B
（1・2層：DB－2、3～7層：H－13、8～11 層：H－15）
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。As－B 混土主体で炭化物を微量に含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り　灰白色粘質土小ブロック・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
5　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。As－C 混土ブロックを少量含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
7　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。灰褐色粘質土ブロックを含む。
8　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
9　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
10　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。As－C 混土ブロックを少量含む。
11　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。
H－13 号竪穴建物跡Ｄ－１号土坑・Ｐ－１号ピット　SPC・E
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を微量に含む。
H－13 号竪穴建物跡Ｄ－２号土坑　SPD
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を微量に含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・灰褐色粘質土ブロック・炭化物を微量に含む。

H－16



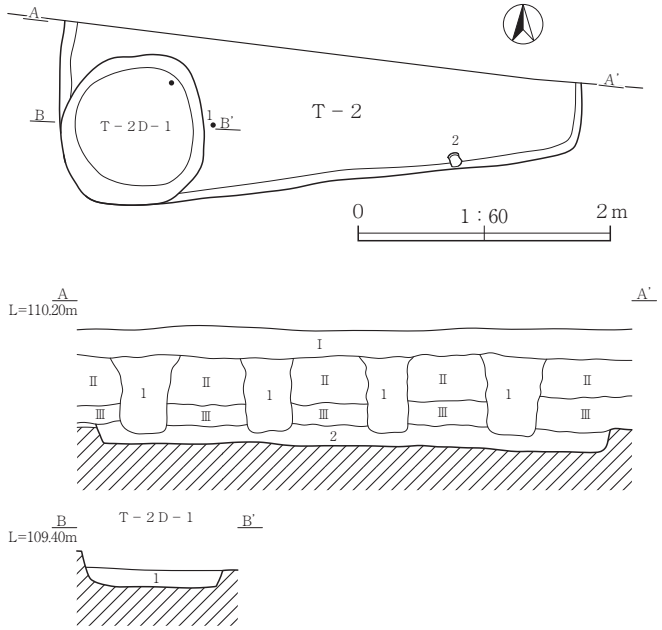
H－16 号竪穴建物跡　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。As-C・灰褐色粘質土小ブロック・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。Hr-FA ブロックを少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。As-C・灰褐色粘質土ブロックを含む。

T－1



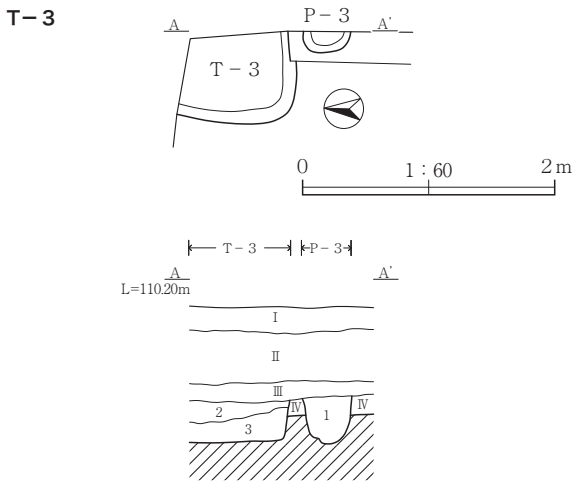
T－1 号竪穴状遺構　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性やや弱い。As-B 混土主体で褐色粘質土小ブロック・炭化物・焼土粒・土器片を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。As-B 混土小ブロック・炭化物を少量含む。
3　褐灰色土（10YR4/1）　締まりやや強い、粘性有り。灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
4　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。炭化物を微量に含む。
T－1 号竪穴状遺構 P－1・2 号ピット　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。As-B 混土小ブロック・炭化物を少量含む。

T－2



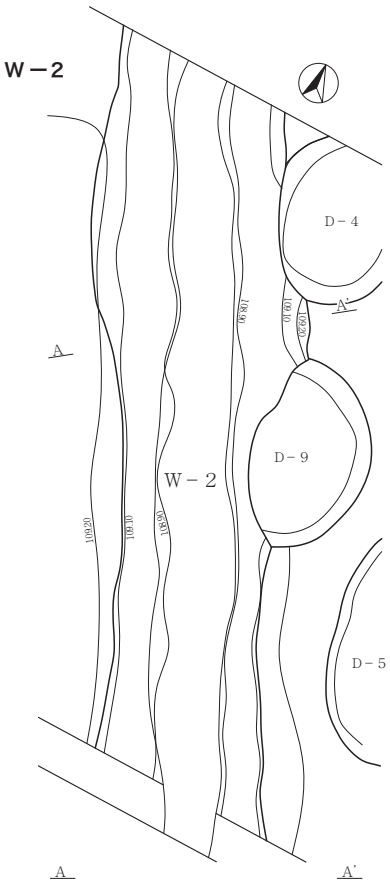
T－2 号竪穴状遺構　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強い、粘性やや弱い。As-B 混土主体で褐色粘質土小ブロック・炭化物・焼土粒・土器片を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
T－2 号竪穴状遺構 D－1 号土坑　SPB
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土粒を微量に含む。

T－3



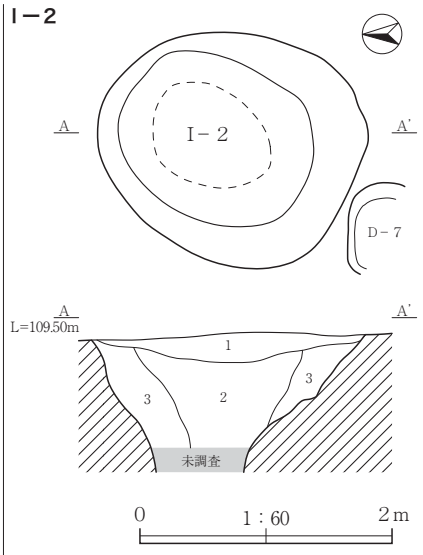
T－3 号竪穴状遺構、P－3 号ピット　SPA（1 層：P－3、2・3 層：T－3）
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を微量に含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土粒を微量に含む。

Fig.11　H－13・15・16 号竪穴建物跡、T－１～３号竪穴建物跡、DB－２号土壙墓

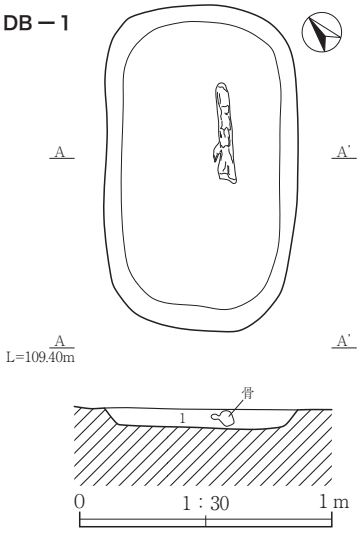


W－２号溝　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性やや弱い。砂粒が主体。
3　明黄橙色土（10YR7/6）　締まり有り、粘性やや弱い。Hr-FA ブロックを主体とする。
4　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。As-C 混土ブロックを少量含む。

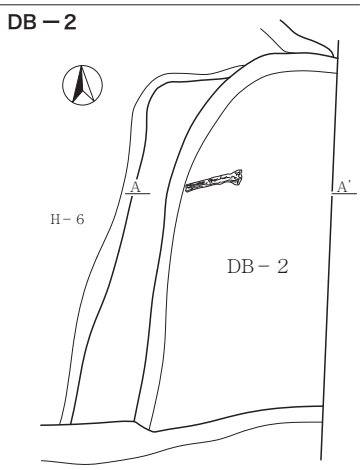
0　1：60　2m



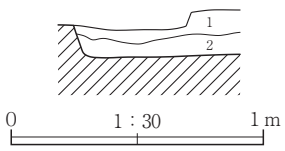
I－２号井戸　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり有り、粘性やや弱い。As-B 混土。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　締まりやや弱い、粘性やや弱い。As-B 混土主体で灰褐色粘質土小ブロックを微量に含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり有り、粘性やや弱い。As-B 混土主体で灰褐色粘質土小ブロックを含む。

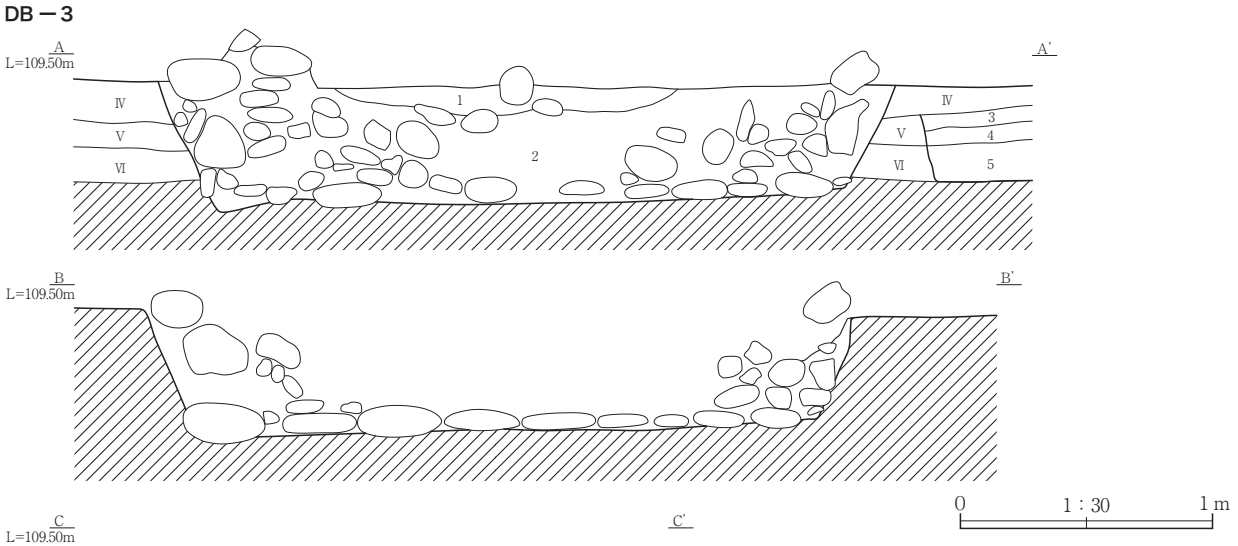


DB－１号土壙墓　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり有り、粘性やや弱い。
　As-B 混土主体で炭化物を微量に含む。



ＤＢ－２号土壙墓　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり有り、粘性やや弱い。As-B 混土主体で炭化物を微量に含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。





DB－３号木棺墓　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・砂粒を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）
　締まり有り、粘性有り。白色軽石を少量、炭化物を微量に含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）
　締まり有り、粘性有り。白色軽石・・炭化物を少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり有り、粘性有り。As-C・灰褐色粘質土小ブロック・炭化物を少量含む。
5　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり有り、粘性有り。As-C・灰褐色粘質土ブロックを含む。

Fig.12　W－２号溝、I－２号井戸、DB－１・２号土壙墓、DB－３号木棺墓

DB－3

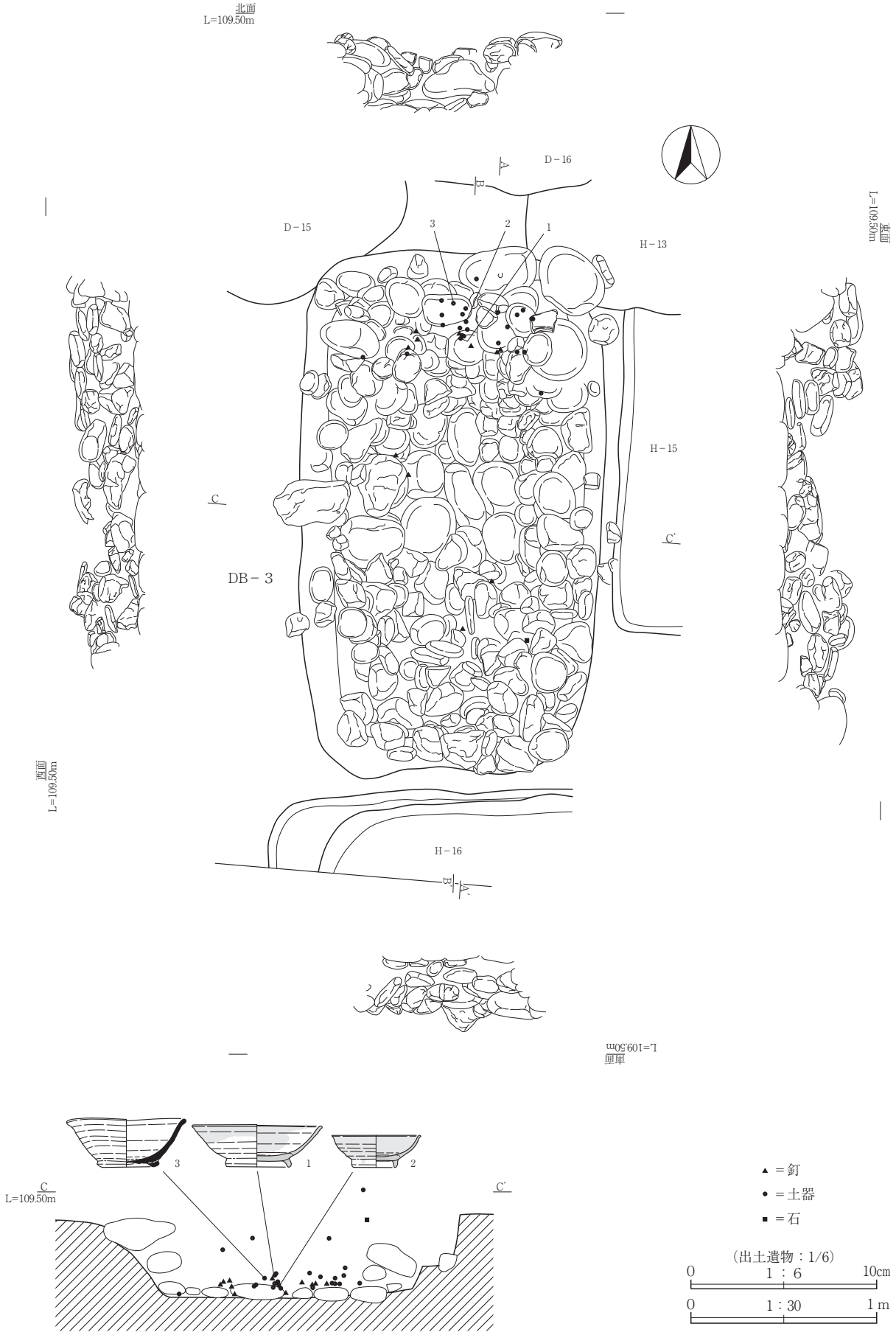
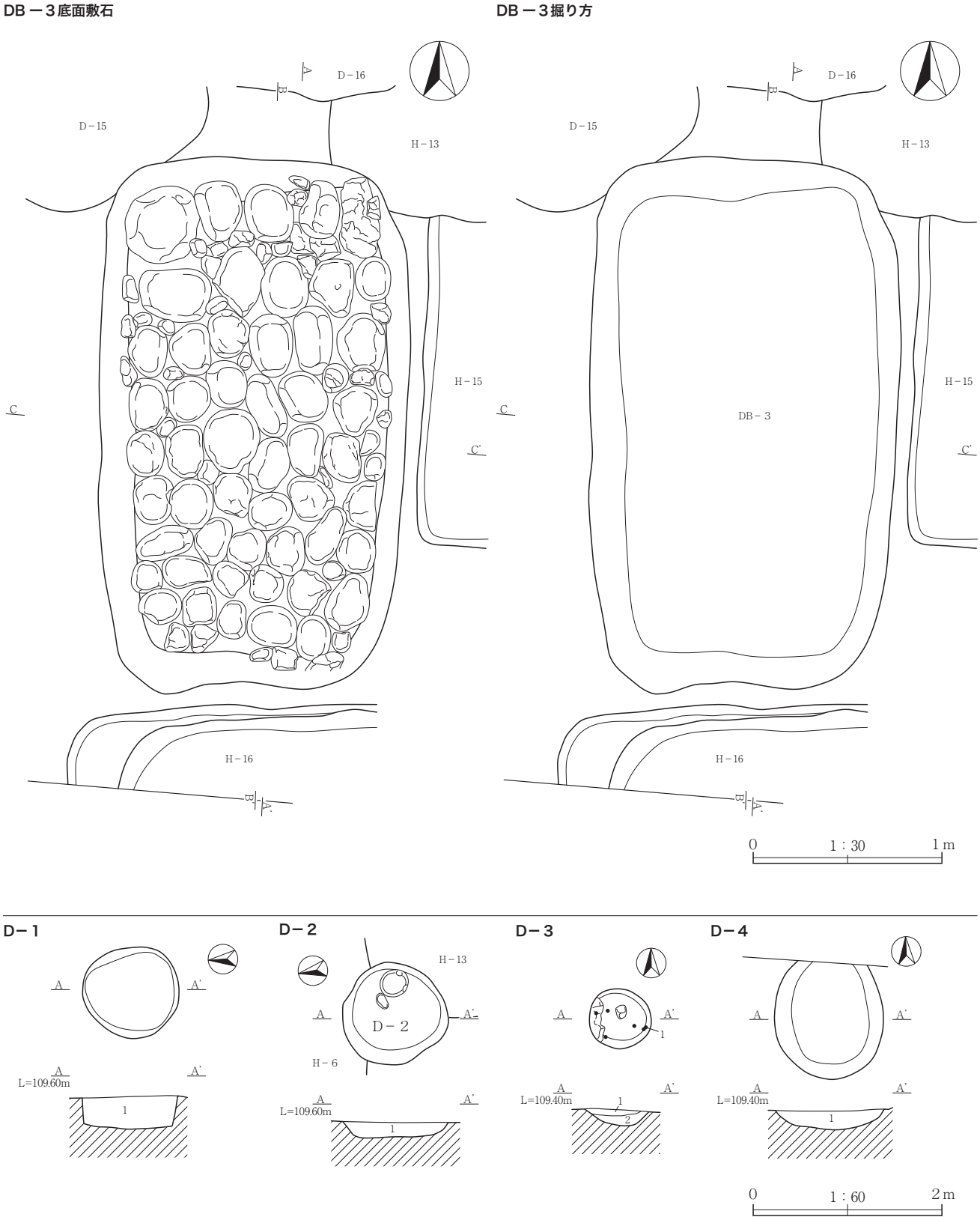
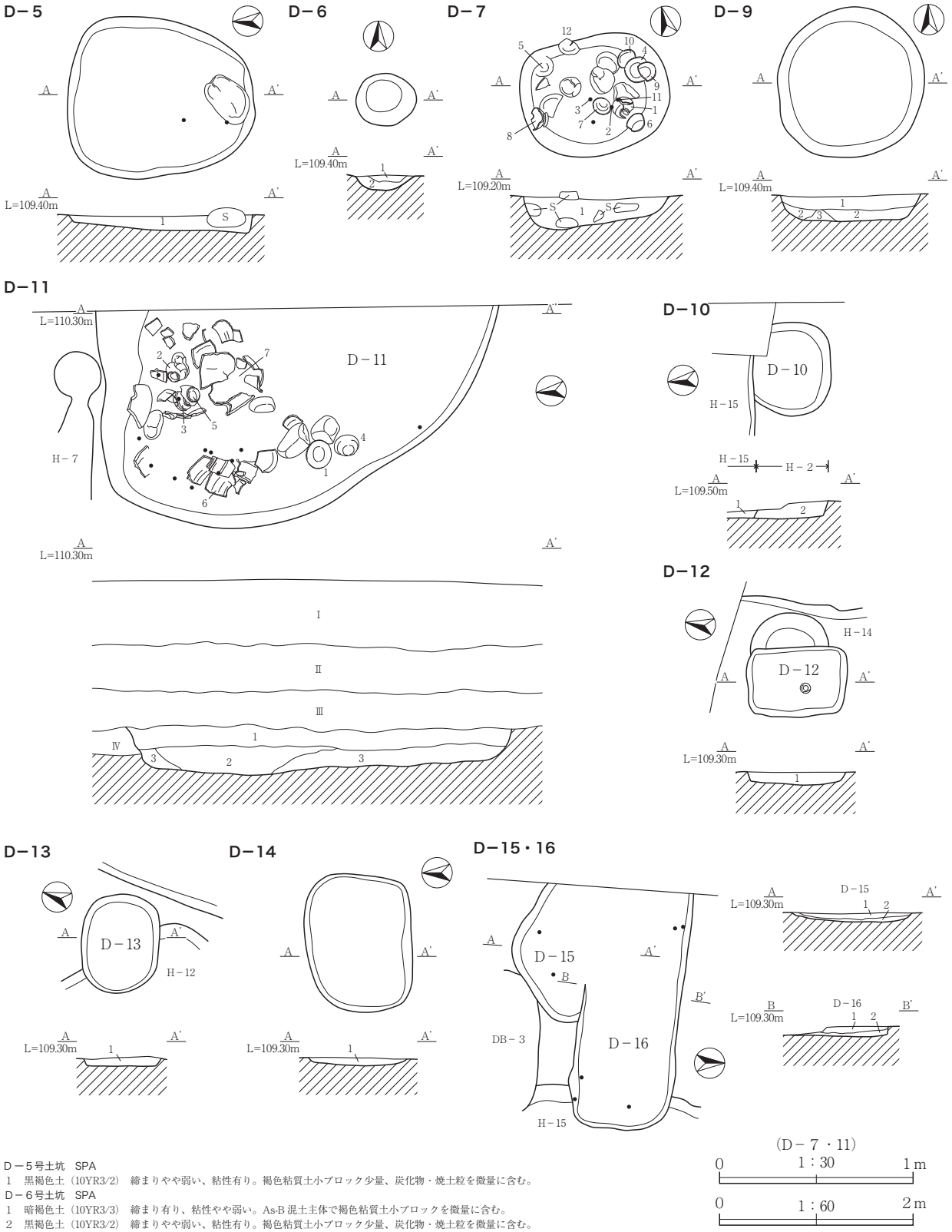


Fig.13　DB－3号木棺墓



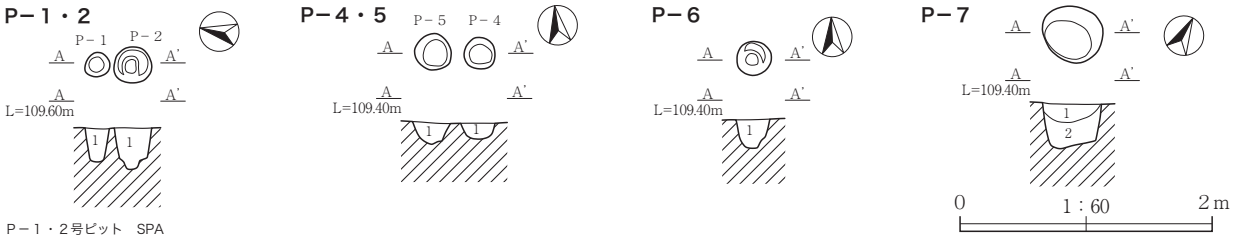
D－１号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。As－B 混土主体で褐色粘質土小ブロックを微量に含む。
D－２号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。As－B 混土主体で褐色粘質土小ブロックを微量に含む。
D－３号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。
D－４号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。

Fig.14　DB－３号木棺墓、D－１～４号土坑



D－5号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや弱い、粘性有り。褐色粘質土小ブロック少量、炭化物・焼土粒を微量に含む。
D－6号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。As-B 混土主体で褐色粘質土小ブロックを微量に含む。
2　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや弱い、粘性有り。褐色粘質土小ブロック少量、炭化物・焼土粒を微量に含む。
D－7号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや強い。As-B 混土小ブロック・炭化物を微量に含む。
D－9号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土を微量に含む。
3　明黄橙色土（10YR7/6）　締まり有り、粘性やや弱い。Hr-FA ブロックを主体とする。
D－10号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・褐色粘質土ブロック・炭化物を少量含む。H－15 覆土。
2　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。As-C 混土ブロック・炭化物を少量含む。
D－11号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物・焼土を少量含む。
3　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り。As-C 混土ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。
D－12号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り　炭化物・焼土を少量含む。
D－13号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　締まり有り、粘性有り　白色軽石・炭化物を少量含む。
D－14号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り　白色軽石・炭化物を少量含む。
D－15号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り　白色軽石・炭化物・骨片を少量含む。
2　暗褐色土（7.5YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。
D－16号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。白色軽石・炭化物を少量含む。
2　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を少量含む。

Fig.15　D－5～7・9～16号土坑



P－１・２号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。
　　As-B 混土主体で褐色粘質土小ブロックを微量に含む。
P－４号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を微量に含む。
P－５号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。炭化物・焼土粒を微量に含む。
P－６号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　締まり有り、粘性やや弱い。
　　As-B 混土主体で褐色粘質土小ブロックを微量に含む。
P－７号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。As-B 混土主体で褐色粘質土小ブロックを微量に含む。
2　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性有り。Hr-FA 小ブロック・炭化物を微量に含む。

Fig.16　P－１・２・４～７号ピット

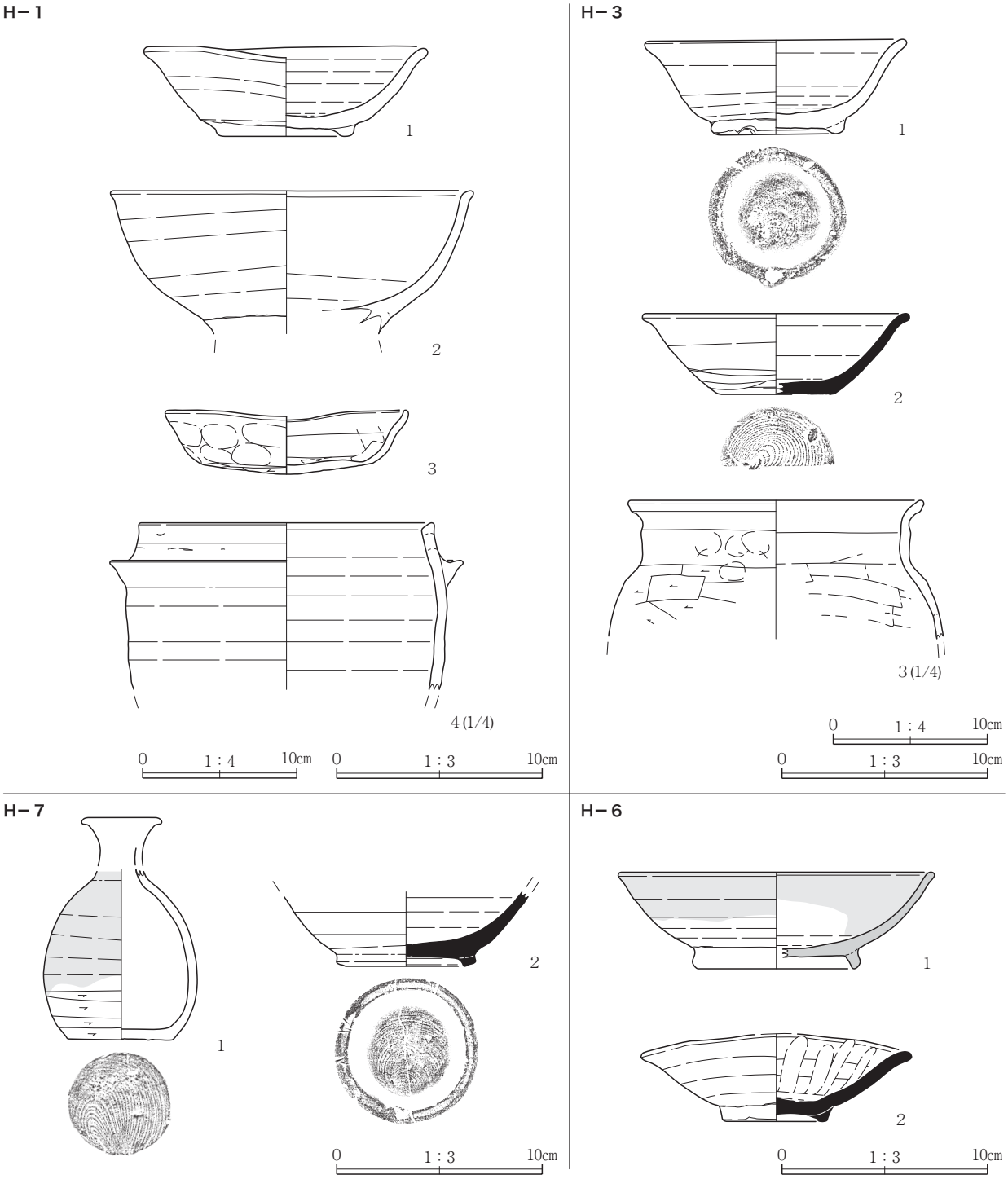


Fig.17　出土遺物（１）

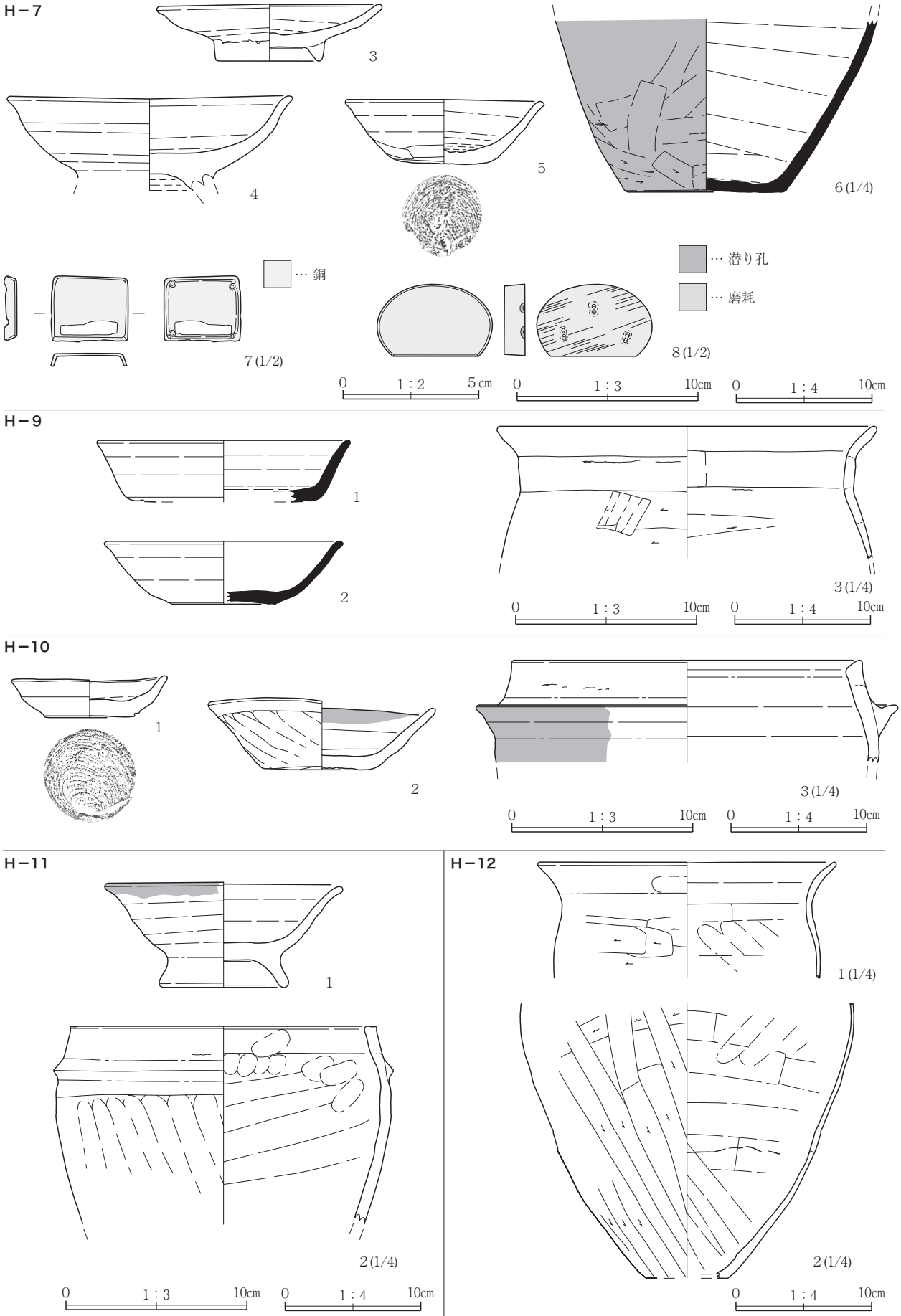

H－7
3
4
5
6 (1/4)
… 銅
… 潜り孔
… 磨耗
7 (1/2)
8 (1/2)
0 1：2 5cm
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
H－9
1
2
3 (1/4)
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
H－10
1
2
3 (1/4)
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
H－11
1
2 (1/4)
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
H－12
1 (1/4)
2 (1/4)
0 1：4 10cm

Fig.18　出土遺物（２）

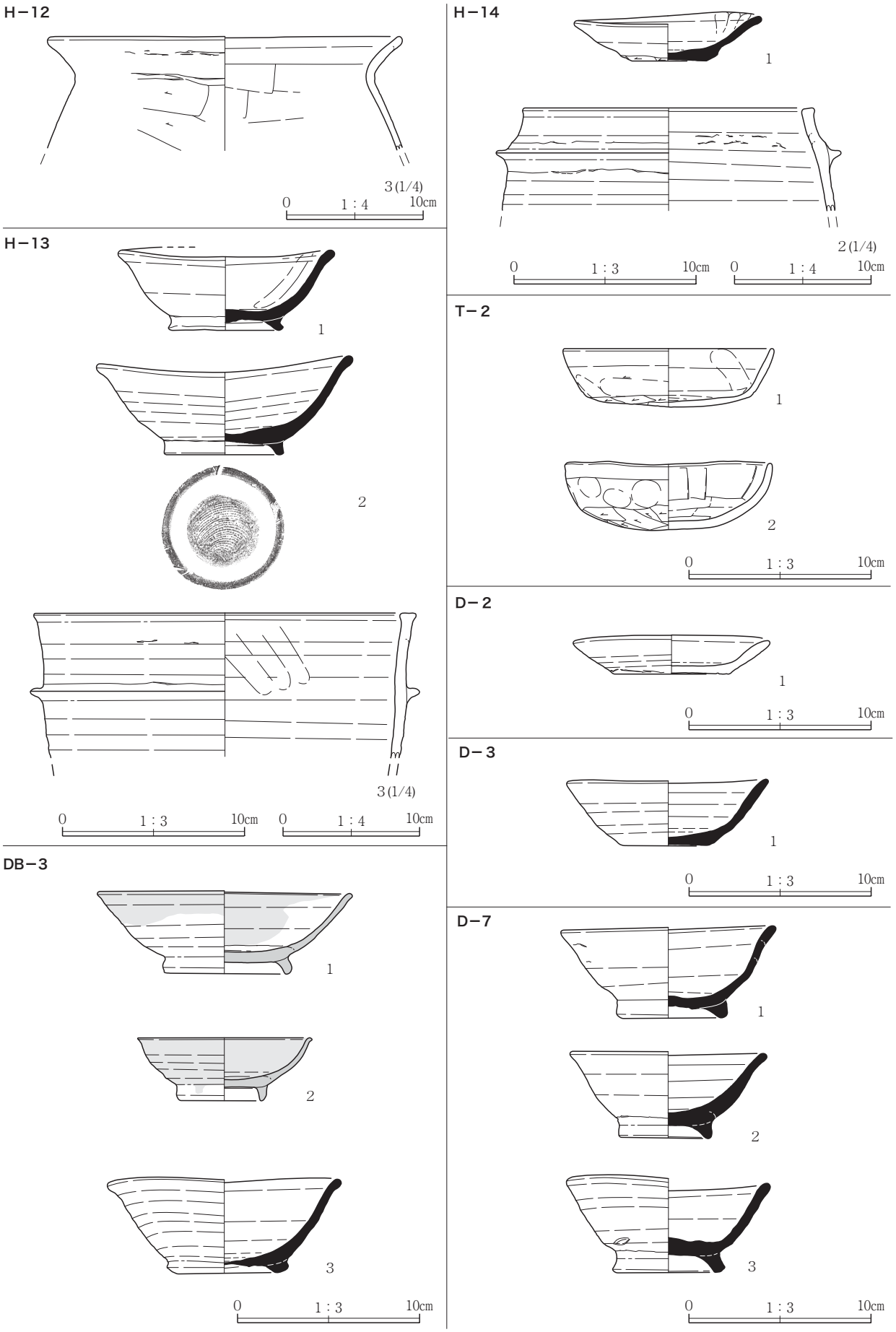

H－12
3(1/4)
0 1：4 10cm
H－13
1
2
3(1/4)
0 1：3 10cm 0 1：4 10cm
DB－3
1
2
3
0 1：3 10cm
H－14
1
2(1/4)
0 1：3 10cm 0 1：4 10cm
T－2
1
2
0 1：3 10cm
D－2
1
0 1：3 10cm
D－3
1
0 1：3 10cm
D－7
1
2
3
0 1：3 10cm

Fig.19　出土遺物（3）

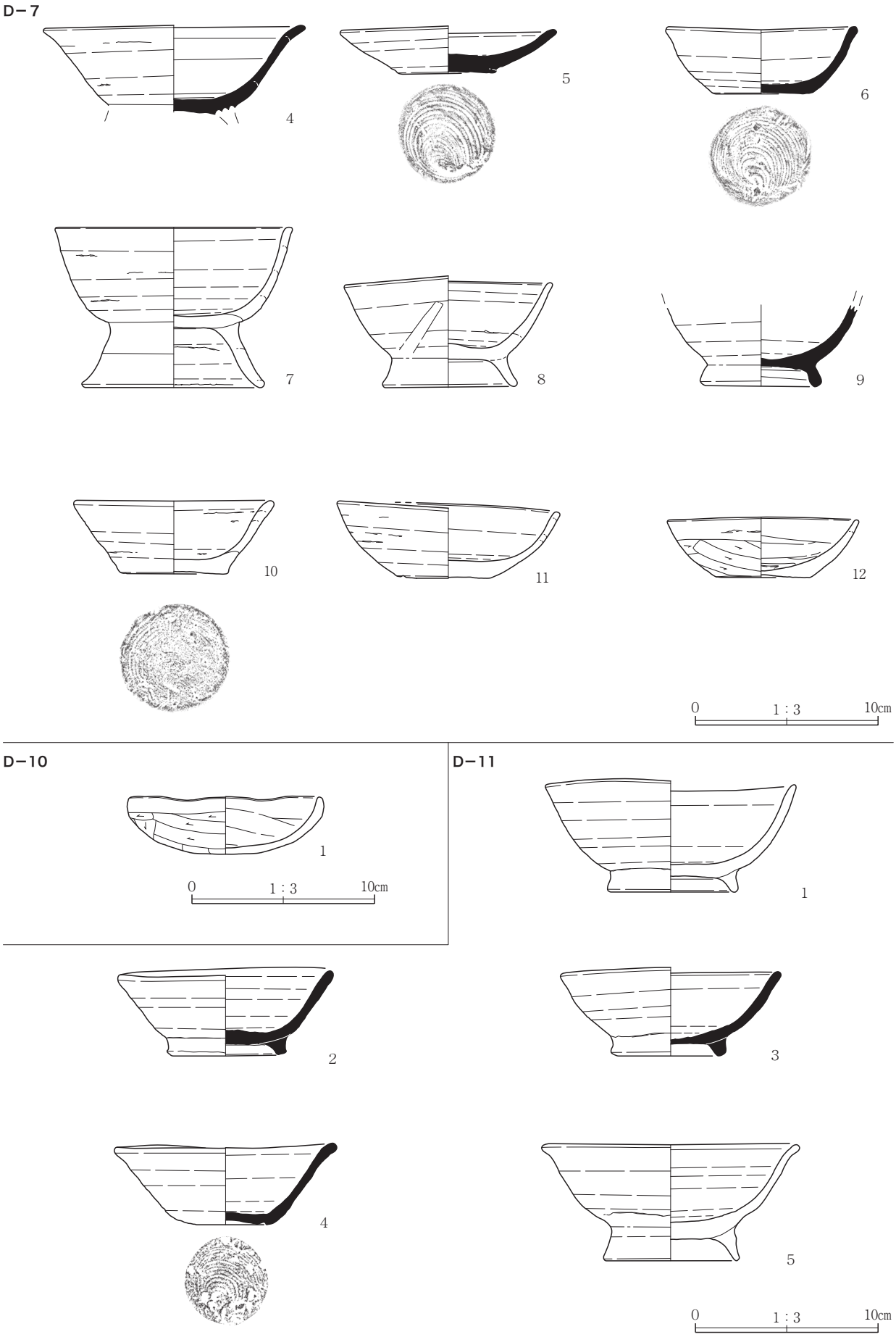
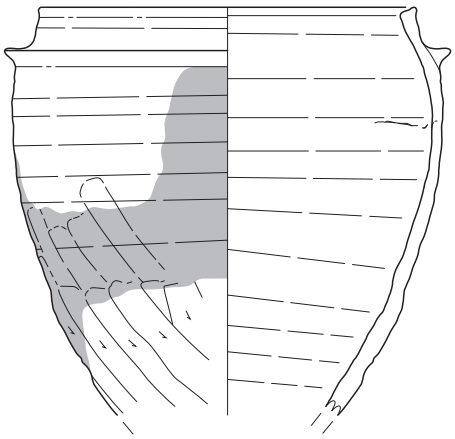
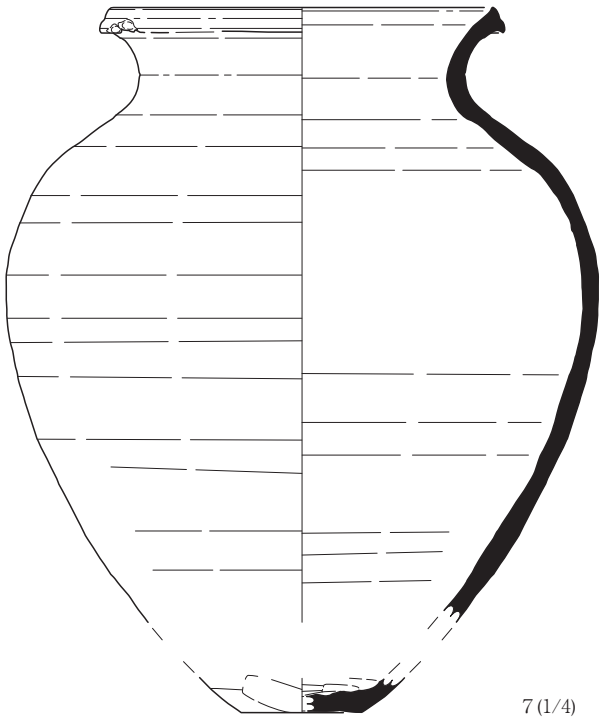


Fig.20　出土遺物（4）

D−11



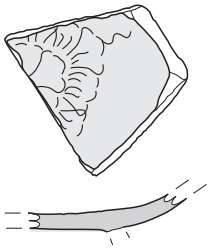
6 (1/4)



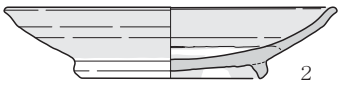
7 (1/4)

0　1 : 4　10cm

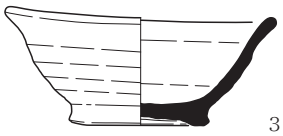
遺構外



1

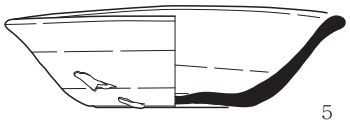


2

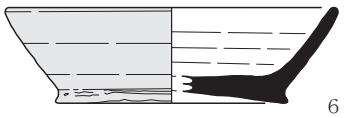


3

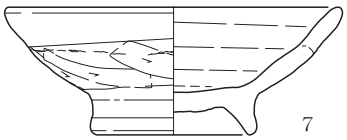
4



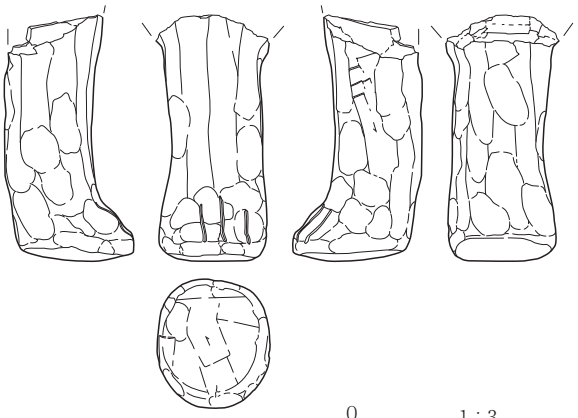
5



6



7



8

0　1 : 3　10cm

Fig.21　出土遺物（5）

Tab. 4　出土遺物観察表

H－1

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　埦	13.8	〔6.6〕	4.4	黒・灰・茶色粒、輝石	酸化焔	にぶい褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	高台一部欠損。
2	カマド	須恵器　埦	〔18.2〕	－	(7.2)	黒雲母、石英、白・赤色粒	酸化焔	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	2/5 残存、高台部欠損。
3	覆土	土師器　坏	11.8	8.4	3.1	黒雲母、白・黒・茶色粒	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ。体部ユビナデ及びユビオサエ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。以下ユビナデ。	完存。
4	カマド	羽釜	〔19.2〕	－	(11.3)	黒雲母、白色鉱物粒、灰・茶色粒	酸化焔	明赤褐	外面回転ナデ。口唇部内斜。鍔上位に凹み部が巡る。 内面回転ナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔23.2〕cm

H－3

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド	須恵器　埦	12.7	6.4	4.6	白色鉱物粗粒、黒雲母、灰・茶色粒、輝石	酸化焔	にぶい黄褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	完存。
2	床面	須恵器　坏	〔13.0〕	〔5.6〕	3.9	灰・茶・黒色粒、輝石	堅緻	黄灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	2/5 残存。
3	床面	土師器　甕	〔19.2〕	－	(9.0)	白色鉱物粒、黒・茶色粒	良好	にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、「コ」の字状口縁。胴部上位横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。以下胴部横位ヘラナデ。	口縁～胴部上位片。

H－6

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器 埦	〔15.4〕	〔8.0〕	4.7	白・黒色粒	堅緻	灰白 灰黄	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け後、高台内回転ヘラケズリ。 内面ロクロナデ。	2/5 残存。
2	床面	須恵器　埦	〔13.0〕	5.0	4.1	白・黒・茶色粒、黒雲母	堅緻	灰白 黄灰	外面ロクロナデ、底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	1/4 残存。

H－7

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器 小瓶	欠損	5.1	(8.4)	白・灰色粒、～３㎜大の小石	堅緻	灰オリーブ灰白	外面ロクロナデ。体部下位回転ヘラケズリ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	口縁部欠損。
2	床面	須恵器　埦	欠損	6.7	(3.6)	白・黒・茶色粒、黒雲母	堅緻	灰白 黄灰	外面ロクロナデ、底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	体部中位～底部残存。
3	カマド	須恵器　埦	12.4	5.9	3.1	灰・黒色粒、チャート、黒雲母	酸化焔	にぶい黄橙	外面ヨコナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け後、高台内ユビナデ。 内面ロクロナデ。	3/5 残存。
4	カマド	須恵器　埦	15.8	欠損	5.3	白・茶色粒、白色鉱物粒、黒雲母	酸化焔	灰黄褐	外面ロクロナデ。底部削り出し高台。 内面ロクロナデ。	4/5 残存。
5	床面	須恵器　坏	10.9	5.4	3.6	茶・黒色粒、白色鉱物粗粒、黒雲母	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。
6	カマド	土師器　甕	欠損	11.7	(12.8)	灰色粒、石英粗粒	良好	褐灰	外面回転ナデ後、ヘラケズリ及びユビナデ。底部回転糸切り後ヘラケズリ。中位～底部煤付着。 内面回転ナデ。	胴部中位～底部残存。

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	材質	重量	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	床面	銙帯金具 巡方	2.4	2.9	0.5	銅	4.7	緑青	表金具。方形で内面は中空。下位に長方形状の垂孔（3.3cm × 2.1cm）。裏面四隅に直径 1.5 ㎜の脚鋲を持つ。先端は欠損。	一部欠損。
8	床面	銙帯金具 丸鞆	2.6	4.2	0.8	玉髄	17.5	白	半円形。表面・側面は良く研磨されている。裏面は斜位擦痕が顕著。２孔１組の潜り孔が３ヶ所。右下位の孔に欠損が認められる。	ほぼ完存。

H－9

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド	須恵器　坏	〔14.0〕	〔10.2〕	(3.3)	白・黒色粒、石英、チャート	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。底部（回転糸切り後）回転ヘラケズリ。 内面ロクロナデ。	口縁～底部片。
2	床面	須恵器　坏	〔13.2〕	〔6.4〕	3.5	茶色粒、～７㎜大の白色鉱物粒	堅緻	黄灰 褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/4 残存。
3	床面	土師器　甕	〔21.0〕	欠損	(7.3)	白・黒・茶色粒、黒雲母	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、「コ」の字状口縁。胴部上位横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ。	口縁～胴部上位片。

H－10

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド	須恵器 小皿	8.6	5.0	2.4	黒色粒、白色鉱物粒	堅緻	酸化焔	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	完存。
2	覆土	土師器　坏	12.6	6.2	3.7	白・茶・黒色粒、黒雲母	良好	灰褐 橙	外面口縁部ヨコナデ。体部ユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	口縁部一部欠損。
3	床面	羽釜	〔19.4〕	欠損	(5.6)	白・黒色粒、輝石	良好	にぶい黄橙	外面回転ナデ。口縁部はやや内傾し、口唇部内斜。鍔上位に凹み部が巡る。内面回転ナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔23.4〕cm

H－11

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　埦	13.2	7.1	5.7	白・灰・黒色粒、チャート	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。口縁部煤付着。 内面ロクロナデ。	完存。
2	覆土	羽釜	〔22.6〕	欠損	(14.5)	灰色粒、～7㎜大の白・茶色粒、黒雲母	酸化焔	明赤褐	外面回転ナデ後、胴部縦位ユビナデ。口縁部内傾、口唇部平坦。鍔部断面は三角形状。 内面回転ナデ。	口縁～胴部中位片。 鍔部径〔25.5〕cm

H－12

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	土師器　甕	〔22.0〕	－	(8.6)	白・茶・黒色粒、黒雲母	良好	明赤褐 黒褐	外面ヨコナデ。口縁帯は広く以下胴部上位横位ヘラケズリ 内面口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ及び縦位ユビナデ。	口縁部～胴部上位片。
2	床面	土師器　甕	－	〔6.0〕	(10.1)	白・茶・黒色粒、黒雲母	良好	明赤褐 黒褐	外面ヨコナデ。下半部縦位から斜位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ及び縦位ユビナデ。	胴部下位～底部片。
3	H－12 D－1	土師器　甕	〔26.0〕	欠損	(8.3)	灰・黒色粒、白色鉱物粒、輝石	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ。胴部上位横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ。	口縁～胴部上位片。

H－13

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　埦	〔12.0〕	6.3	4.4	白・黒色粒、白色鉱物粒	堅緻	黄灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/5 残存。
2	床面	須恵器　埦	〔14.3〕	6.5	5.4	黒色粒、白色鉱物粒	堅緻	灰白 黄灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/5 残存。
3	覆土	羽釜	12.6	6.2	3.7	白・茶・黒色粒	還元焔	黒 灰白	外面回転ナデ。口唇部は平坦で厚みを持つ。鍔部薄型。 内面回転ナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔28.8〕cm

H－14

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　坏	10.3	4.2	2.6	白・灰・黒色粒、小礫	堅緻	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、底部周縁ヘラケズリ。 内面ロクロナデ。	完存。
2	覆土	羽釜	〔21.4〕	欠損	(7.7)	白色鉱物粒、黒雲母、チャート	酸化焔	にぶい橙	外面回転ナデ。口唇部は平坦で厚みを持つ。鍔部薄型。 内面回転ナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔25.0〕cm

T－2

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	土師器　坏	〔11.6〕	〔8.8〕	3.3	黒雲母、チャート	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ及びユビナデ。	1/2 残存。
1	床面	土師器　坏	11.4	丸底	3.7	黒雲母、白色鉱物粒、チャート	良好	いぶい橙	外面口縁部ヨコナデ。体部ユビナデ及びユビオサエ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ及びユビナデ。	3/4 残存。

DB－3

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面	灰釉陶器 碗	14.0	6.9	4.5	粘土質、白・黒色粒	堅緻	オリーブ灰 灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け後、高台内回転ヘラケズリ。灰釉施釉、口縁下位に釉涙痕顕著。 内面ロクロナデ。体部下位に重ね焼き痕顕著。灰釉施釉。	口縁一部欠損。
2	底面	灰釉陶器 小碗	9.6	4.7	3.5	粘土質、黒色粒、白色鉱物粒	堅緻	オリーブ灰 灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。灰釉施釉。 内面ロクロナデ。体部下位に重ね焼き痕が僅かに認められる。灰釉施釉。	3/4 残存。
3	底面	須恵器　埦	12.8	6.6	5.2	灰・茶色粒、白色鉱物粒、輝石	堅緻	黄灰 黒	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面ロクロナデ。	口縁部一部欠損。

D－2

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面	かわらけ	〔11.0〕	〔6.4〕	2.1	茶・黒色粒	堅緻	浅黄	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	2/5 残存。

D－3

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面	須恵器　坏	11.0	5.0	3.7	白色粒、黒雲母、輝石	堅緻	にぶい黄褐	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	ほぼ完存。

D－7

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面	須恵器　埦	11.8	6.1	5.1	灰色粒、白色鉱物粒、黒雲母、チャート粗粒	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	4/5 残存。 歪み有り。
2	底面	須恵器　埦	10.8	5.1	4.8	灰色粒、茶色粗粒、白色鉱物粒	堅緻	黒褐 灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	ほぼ完存。
3	底面	須恵器　埦	11.2	6.1	5.1	灰・黒色粒、輝石	堅緻	黒褐 褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	完存。 歪み有り。
4	底面	須恵器　埦	14.4	欠損	(4.8)	茶色粒、黒雲母	堅緻	灰白 黄灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	口縁の一部及び高台部欠損。

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	底面付近	須恵器　坏	11.8	5.4	2.5	灰・黒色粒、白色鉱物粒、石英、チャート	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	ほぼ完存。
6	底面付近	須恵器　坏	〔10.2〕	5.4	3.7	白・黒・茶色粒、輝石	堅緻	黒褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。
7	底面付近	須恵器　埦	〔13.0〕	10.0	8.8	黒・茶色粒、白色鉱物粒	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	1/2 残存。
8	底面付近	須恵器　埦	11.4	7.4	6.1	白・黒・茶色粒	酸化焔	明赤褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	4/5 残存。
9	底面付近	須恵器　埦	欠損	6.5	(4.4)	白・黒・灰・茶色粒	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	体部中位～底部残存。
10	底面付近	須恵器　坏	10.9	5.9	4.1	茶色粒、黒雲母、白色鉱物粗粒	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、ヘラナデ。 内面ロクロナデ。	ほぼ完存。
11	底面付近	須恵器　坏	12.2	5.3	4.2	茶色粒、黒雲母、白色鉱物粒、輝石	酸化焔	にぶい橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切りヵ。 内面ロクロナデ。	口縁部一部欠損。
12	底面付近	土師器　坏	〔10.7〕	5.2	3.5	白・茶・黒色粒、黒雲母	良好	褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	2/5 残存。

D－10

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面付近	土師器　坏	〔10.6〕	丸底	3.2	白・茶・黒色粒、輝石	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ。体部との境に僅かな陵を有して以下体部から底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ及びユビナデ。	2/5 残存。

D－11

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面付近	須恵器　埦	13.7	7.1	5.9	黒・茶色粒、白色鉱物粒、～8㎜大のチャート	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	ほぼ完存。
2	底面付近	須恵器　埦	11.8	6.5	4.9	白・茶色粒、黒雲母	やや酸化焔	灰黄褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	4/5 残存。
3	底面付近	須恵器　埦	12.1	6.3	4.6	黒雲母、白色鉱物粒、チャート	やや酸化焔	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	口縁部一部欠損。
4	底面付近	須恵器　坏	12.3	5.0	4.5	黒雲母、白色鉱物粒、チャート	堅緻	黒褐 明赤褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	完存。
6	底面付近	羽釜	〔20.0〕	欠損	(21.8)	灰・黒色粒	還元焔	灰白 褐灰	外面回転ナデ。口縁は内傾し、口唇部は平坦で内斜。鍔上位に凹みが巡る。胴部中位以下回転ナデ後、斜位ヘラケズリ。煤付着。 内面回転ナデ。	口縁～胴部下位 1/2 残存。 鍔部径〔23.4〕cm 歪み有り。
5	底面付近	須恵器　埦	〔13.7〕	7.4	6.5	茶色粒、黒雲母、白色鉱物粒	酸化焔	橙 にぶい赤褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	2/3 残存。
7	底面付近	須恵器　甕	20.8	〔6.6〕	〔37.3〕	白・黒・茶色粒、輝石	やや酸化焔	灰褐	外面回転ナデ。口縁部は口縁帯の両端を突出させ、中位に僅かな凹みが巡る。 内面回転ナデ。中位は土器表面の剝落顕著	口縁～底部。 胴部下位欠損。

調査区

No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	調査区一括	緑釉陶器 陰刻花文皿	欠損	欠損	(1.5)	粘土質、黒色粒	堅緻	緑	外面ロクロナデ。底部高台貼付け。緑釉施釉。 内面ロクロナデ。見込みに陰刻の花文。緑釉施釉。	体部下位～底部片。 高台欠損。
2	覆土	灰釉陶器 皿	〔13.2〕	7.1	2.8	粘土質、白・黒色粒	堅緻	灰白 灰黄褐	外面ロクロナデ。底部（回転糸切り後）高台貼付け後、高台内回転ヘラケズリ。灰釉施釉。 内面ロクロナデ。体部下位に重ね焼き痕が僅かに認められる。灰釉施釉。	2/3 残存。
3	調査区一括	須恵器　碗	10.8	5.5	4.7	灰・黒・茶色粒	堅緻	黄灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	口縁部一部欠損。
4	調査区一括	須恵器　碗	14.4	7.5	5.6	黒・茶色粒、～6㎜大の白色鉱物粒、チャート	堅緻	灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。中位以下ハケによる回転ナデか。	完存。 歪み有り。
5	調査区一括	須恵器　坏	13.5	6.5	3.6	白・黒・茶色粒、輝石	堅緻	黄灰 黒	外面ロクロナデ。口唇部外反。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	口縁部一部欠損。
6	調査区一括	須恵器　坏	〔13.2〕	〔9.8〕	4.0	白・茶色粒、黒雲母、白色鉱物粗粒	堅緻	灰白 黄灰	外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。全面に自然釉付着釉。 内面ロクロナデ。	口縁～底部片。
7	覆土	須恵器　埦	〔13.4〕	6.5	5.1	茶色粒、黒雲母、チャート	やや酸化焔	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。体部中位ロクロナデ後ヘラケズリか。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	2/5 残存。
No	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	材質	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
8	調査区一括	須恵器 獣脚付円面硯ヵ	(9.8)	(4.5)	5.1	白色鉱物粗粒、黒色粒	堅緻	褐灰	手捏後、脚部縦位ヘラケズリ及びユビナデ。正面下位の爪３ヶ所はヘラによる線刻。足裏面ヘラケズリ及びユビナデ。上部は硯底部との接合面か。	脚部一足完存。 円面硯の獣脚ヵ。

Ⅵ　まとめ

西部第一落合遺跡群（４）の発掘調査において得られた成果から特徴的な遺構・遺物について検討を行い、まとめとしたい。

本遺跡周辺の景観想定

本遺跡周辺の土地利用の変遷については西部第一落合遺跡群（２）のまとめに記載されているが、これに本遺跡の調査成果を加えて改めて本地域の景観想定を行ってみたい。

今回の調査で竪穴建物跡は16軒確認され、その内９世紀代以降の建物跡は14軒を数える。９世紀代以降が多い傾向は周辺遺跡と同じ様相を示している。それまで集落が点在していたこの地域は９世紀に入ると広範囲に集落が営まれるようになったと推測される。

本遺跡Ｗ－２号溝は覆土中にAs-C混土を含むことから古墳時代の溝と想定される。走行方向は北西－南東方向を向く。北には西部第一落合遺跡群（１）Ｗ－１号溝（以下、落合１Ｗ－１）が存在するため、ここから水を取り入れたと考えられる。落合１Ｗ－１と本遺跡Ｗ－２号溝との比高差は約50cm。本遺跡Ｗ－２号溝の方が高いため、何かしらの手段で引水していたと推測される。周辺では古墳時代の遺構は畠跡しか確認されておらず、同時代の集落は確認されていない。今後の調査成果の増加によってこの溝の性格が明らかにされることに期待したい。

銙帯金具について

Ｈ－７号竪穴建物跡から銅製巡方と石製丸鞆の２つの銙帯金具が出土した。銙帯金具とは革帯に付けられる飾金具のことで、方形や半円形を呈する金属や石材を用いて作られたものである。律令期の官人が着用していた腰帯に付けられていたとされている。文献資料では『西宮記』「和同四年　革帯始用云々」と記載があることから和同四年（711）には革帯の使用が始まったとされている。『続日本紀』和同五年（712）五月癸酉条には官位が六位以下のものは銅と白鉛・錫との合金を持って腰帯を飾ることを禁止すると記載されていることから、金属製の銙帯金具の存在が確認できる。養老二年（718）に制定された『衣服令』によれば、官位が五位以上は金銀腰帯、六位以下は烏油（くろつくり）腰帯[1]を着用するようにと規定されている。『日本後紀』延暦十五年（796）十二月辛酉条には、これ以降金属製銙帯の使用を禁止される事項が記載されている。このことから金属製の銙帯金具の使用期間は711年から796年までとされている[2]。

本遺跡で出土した銙帯金具を見てみよう。鋳造品と考えられる銅製の巡方は縦幅に対して横幅がやや長い方形を呈している。正面下方には長方形の垂孔が空けられており、裏面は中空、四隅には帯に装着するための鋲（脚鋲）を備えている（全て欠損）。革帯への装着は表金具と裏金具で革帯を挟み込み、かしめて留める方法である。丸鞆は白色の玉髄（瑪瑙）を用いて半円形状に作られた石製品である。表面と側面は良好に研磨され、裏面には斜位の擦痕が確認できる。また裏面には２孔１組の潜り孔が３ヶ所設けられており、この孔に銅線を通し革帯へ装着していたと考えられる。

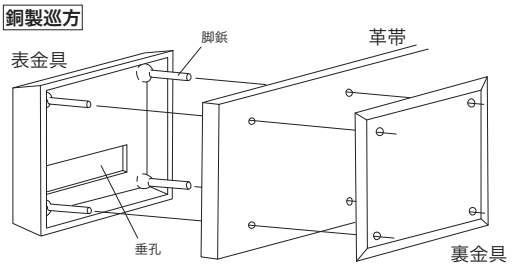


Fig.22　銙帯金具装着状況模式図（木村2002を一部改変）

田中広明氏は材質・形状等から銙帯金具の型式分類を行っている（田中1990）。この分類によれば、それまで刀や剣などの腰佩を垂下させる装着孔として備わっていた垂孔が垂下具の消滅によって形骸化していく。鋳造品においては金具の幅1/2程の大きさがあった孔（大孔）は徐々に小さくなり（小孔→細長孔）、

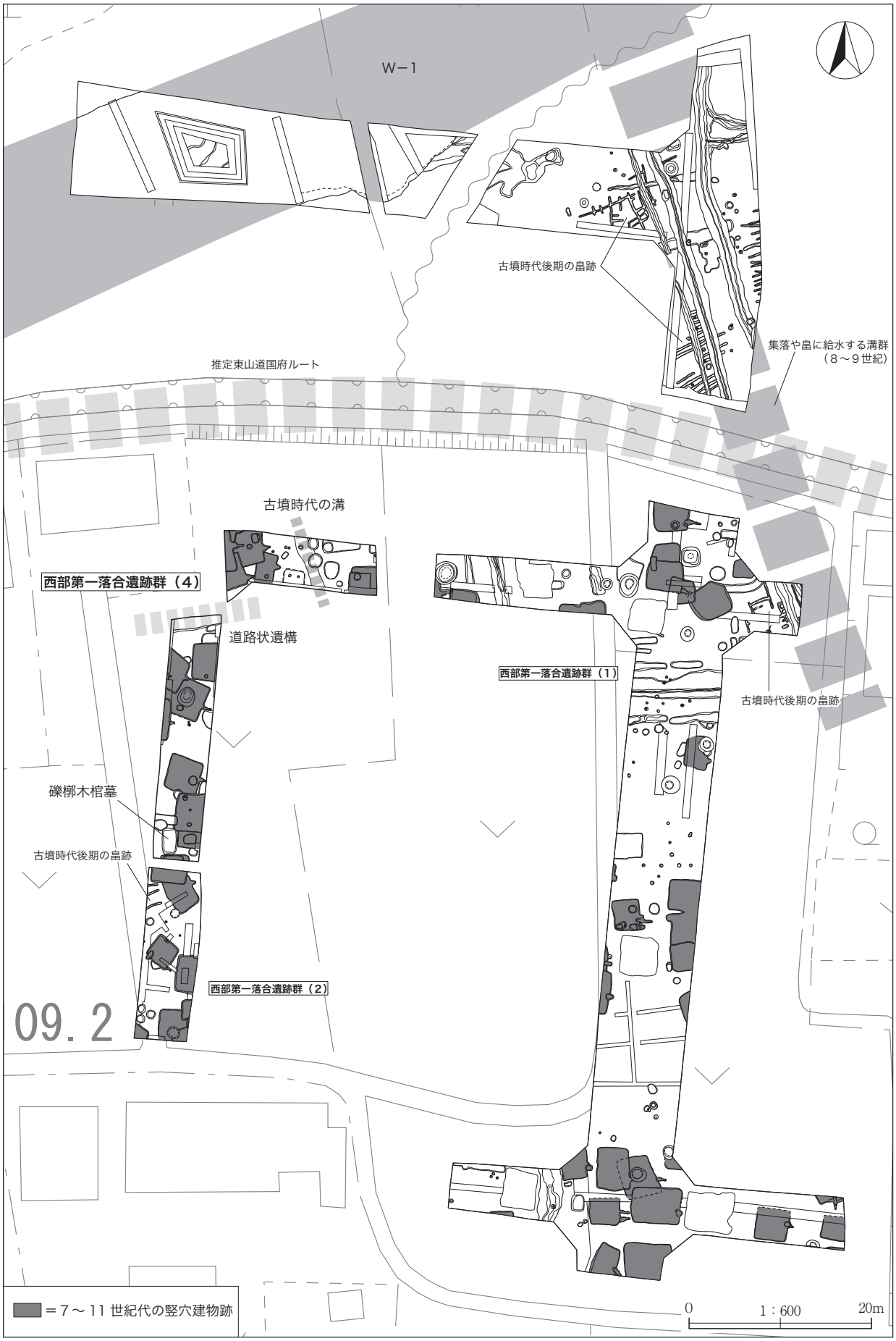


Fig.23　西部第一落合遺跡群（4）周辺の景観想定図

最終的には無くなってしまい（無孔）、石製品では小孔→線孔→無孔となる変化が見られるとしている。また田中氏は竪穴住居跡から出土した鋳造品をまとめ、出土遺構や共伴遺物の年代から大孔は８世紀第２四半期、小孔は８世紀代４四半期、細長孔は９世紀第１四半期、無孔は10世紀第２四半期に出土のピークが見られるとしている（田中2002）。本遺跡の巡方（鋳造品）をこの分類に当てはめると細長孔となる。細長孔の出土ピークが９世紀第１四半期となると、巡方が出土した建物跡の年代観が９世紀後半と想定していることから、ピークよりやや後の減少する時期のものと考えられる。無孔（石製品）の銙帯金具は８世紀後半に出土が見え始め、以降出土量が増加し10世紀第２四半期をピークとしている。本遺跡の丸鞆は出土遺構の年代観から増加傾向にある９世紀代のものとして想定したい。

DB－３号木棺墓について

調査区南隅で確認されたDB－３号木棺墓は、長方形状のモノを囲むように石が組まれている事、木質を含んだ鉄釘が多数出土している事、遺構内北側に坏・埦類の出土が集中している事から礫槨木棺墓であると想定した。墓内側面を石で囲っている渋川市白井掛岩遺跡46号土坑[3]や木棺を平衡にするための台石を備える元総社蒼海遺跡群（130）１区DB－１[4]など石材を用いた土壙墓・木棺墓の出土事例は数例あるものの、多量の川原石を用いて、一見して古墳の礫槨墓に思えるような石組の古代の墓は類例が見つからない。そこで木棺墓の視点から考察を行い、この墓の性格を検討してみたい。

加藤真二氏は畿内地域（奈良･京都･大阪）における８～10世紀初頭の木棺墓30例を集成･分析している（加藤1997）。木棺墓出現期とされる８世紀後半の段階では律令官人層の墓とし、いずれも槨を持つ構造であることから、当初は槨と木棺は一体のものと想定された。８世紀末から９世紀中頃になると木棺墓は多様化し、それまで埋納されていた官人的な副葬品を持たず[5]、槨を設けない木棺墓が出現する。この墓制の変化は官人層とは別の経済的に富裕な階層の人々が新たに木棺墓を受容し始めたことに起因するという。９世紀後半以降は大量に土器を副葬する事例が出現し、官人墓とみられるものが激減、官人層は木棺墓から離れ火葬墓へと回帰する。この頃の木棺墓の造営主体は富裕な階層の人々へと移っていった。本遺跡の木棺墓は出土遺物から10世紀前半頃と推定されている。加藤氏の分析に従えば本遺構は官人的な副葬品は見られないことから被葬者は経済的に富裕な階層の人であったと考えられる。さらに石槨を備えていることから、より階層が高い人物であったと想像される。

ではなぜこのような富裕階層の墓が同時代の集落が広がるこの場所に設けられたのだろうか。『日本後紀』延暦十六年（797）正月壬子条に「山城国愛宕・葛野両郡では人が死ぬと住宅地のかたわらに埋葬することが慣(なら)いとなっている」とあり、８世紀末には家の側に死者を葬る風習が存在していたことがわかる。本遺跡の木棺墓は屋敷地の内部や隣接した場所に造られる「屋敷墓[6]」のようなものだったのではないだろうか。屋敷地は不明ではあるが、この地域に関わりの深い人物であったと推測される。

本遺構の被葬者はこの地域の有力者であり、９世紀以降集落が多く営まれるようになる落合地区の開発に携わっていた人物であったのかもしれない。

註

１．黒漆を塗った銅製の銙帯金具を用いた腰帯と考えられる。

２．延暦十五年（796）以降禁止されていた金属製の銙帯は、『日本後紀』弘仁元年（810）九月乙丑条に「大同二年（807）の命令によって禁止されていた雑石を用いた銙帯は材料も得やすく、造って売る人も多く、破損しにくい。銅の銙帯は漆が塗ってあるので動くと剥落し易い。雑石も銅も価値がほぼ同じであることから、雑石の腰帯を用いることをこれ以降許可する」と記載されており、796～810年の間は使用されていたと考えられている。

３．白井掛岩遺跡46号土坑は規模3.92ｍ×1.32ｍ、深さ0.45～0.60ｍの長方形の土壙墓と考えられる。扁平な川原石を側面に立てて区画し、底面長軸方向に石を敷く。木棺の台石か。10世紀後半。

4．元総社蒼海遺跡群（130）１区 DB －１は規模（1.56）m ×0.70 m、深さ 0.40 mの長方形の木棺墓と考えられる。鉄釘９点出土。木棺を平衡に置くための台石を底面に備える。10 世紀。

5．「被葬者が官人であることを推定しうる石帯、冠を指す」（加藤 1997）。

6．屋敷墓は平安時代後半から鎌倉時代を中心に、屋敷地の内部や隣接した場所に墓が１～２基造られる墓のことをいう。屋敷を設け周辺を開墾した開発領主の墓や、屋敷神として先祖を祭ったものと考えられている。（文化庁 2016　p 197）

参考文献

銙帯金具

田中広明　1990　「律令時代の身分表象（Ⅰ）　－帯飾具の生産と変遷－」『土曜考古』第 15 号

田中広明　1991　「律令時代の身分表象（Ⅱ）　－腰帯をめぐる人々の奈良・平安時代－」『土曜考古』第 16 号

武田佐知子　2002　「律令衣服令と帯」『銙帯をめぐる諸問題』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

高島英之　2002　「文献資料からみた日本古代の銙帯」『銙帯をめぐる諸問題』　独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

木村泰彦　2002　「銅銙から石銙へ」『銙帯をめぐる諸問題』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

木棺墓

加藤真二　1997　「木棺墓 SX6428 について」『平城京左京七条一坊一五・一六坪』奈良国立文化財研究所学報第 56 冊　奈良国立文化財研究所

森田　悌　2006　『日本後紀』（上）　講談社

文化庁文化財部記念物課　2016　『定本　発掘調査のてびき　－集落遺跡発掘編－』　同成社

渋川市教育委員会ほか　2016　『白井掛岩遺跡』

渡邊邦雄　2018　『墓制にみる古代社会の変容』　同成社

前橋市教育委員会　2019　『元総社蒼海遺跡群（130）』

山口博之　2020　「秋田県横手市館尻遺跡の屋敷墓　－東北・北海道にみる中世初頭の墓－」『東北文化研究所紀要』第 52 号　東北学院大学東北文化研究所

調査区全景（南から）

調査区全景（上が西）

Ｈ－１号竪穴建物跡全景（南から）

Ｈ－１号竪穴建物跡カマド全景（西から）

Ｈ－２号竪穴建物跡全景（西から）

Ｈ－３号竪穴建物跡全景（南から）

Ｈ－３号竪穴建物跡全景（西から）

Ｈ－４・５号竪穴建物跡全景（西から）

Ｈ－６号竪穴建物跡全景（西から）

Ｈ－６号竪穴建物跡カマド全景（西から）

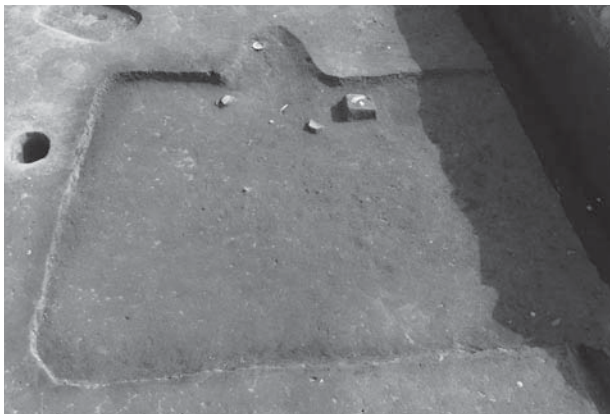
Ｈ－７号竪穴建物跡全景（西から）

Ｈ－７号竪穴建物跡カマド全景（西から）

Ｈ－８号竪穴建物跡全景（西から）

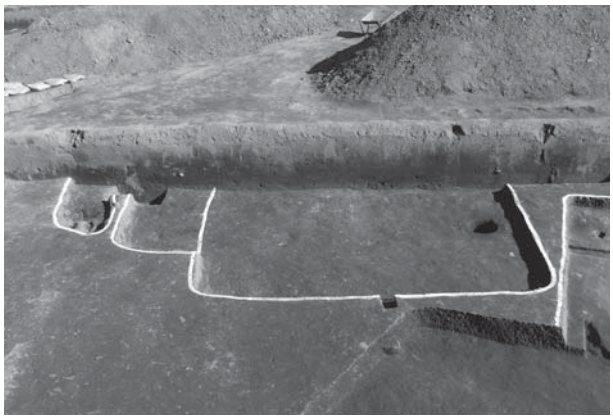
Ｈ－９号竪穴建物跡全景（西から）

Ｈ－９号竪穴建物跡カマド全景（北から）



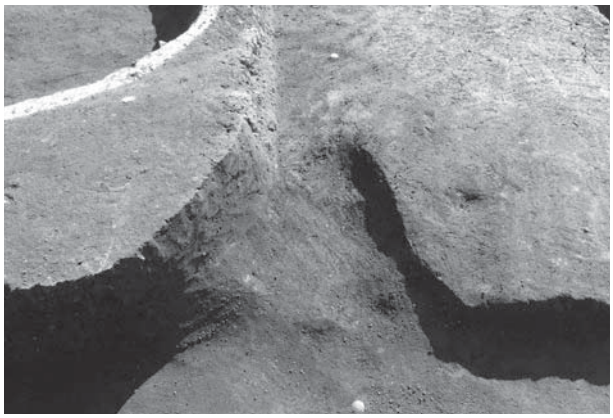
Ｈ－10号竪穴建物跡全景（西から）

Ｈ－10号竪穴建物跡カマド全景（西から）



Ｈ－11号竪穴建物跡、Ｄ－８号土坑、Ｗ－１号溝全景（西から）

Ｈ－12号竪穴建物跡全景（西から）


Ｈ－12号竪穴建物跡カマド全景（西から）

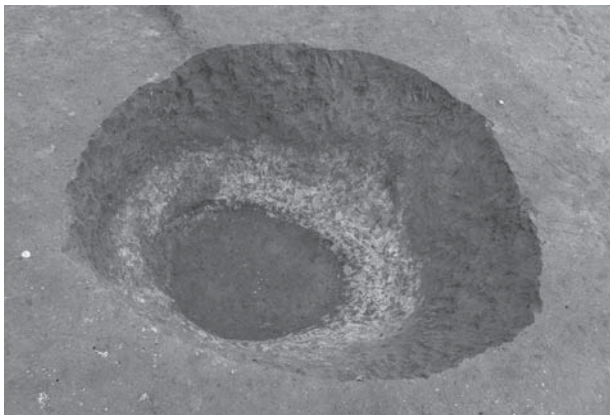
Ｈ－14号竪穴建物跡全景（西から）

Ｔ－１号竪穴状遺構全景（西から）

Ｔ－２号竪穴状遺構全景（西から）

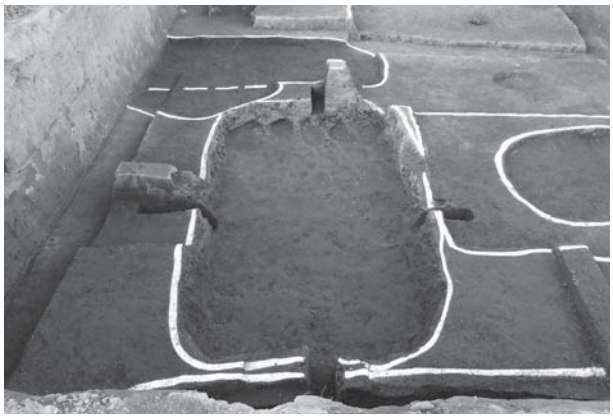
Ｔ－３号竪穴状遺構全景（西から）

Ｗ－２号溝全景（南から）


Ｉ－２号井戸全景（西から）

DB－３号木棺墓全景（西から）

DB－３号木棺墓底面敷石全景（西　から）



DB－３号木棺墓掘り方全景（南から）

調査区北側全景（東から）

調査区南側全景（南から）

H－1－1

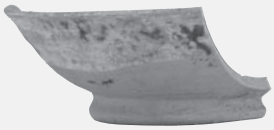
H－1－3

H－1－4（1/4）

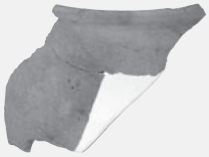
H－1－2

H－3－1

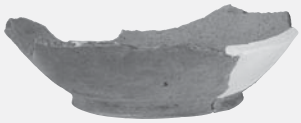
H－3－2


H－6－1

H－6－2

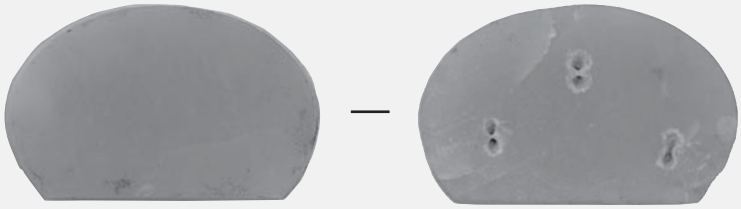

H－3－3（1/4）

H－7－1

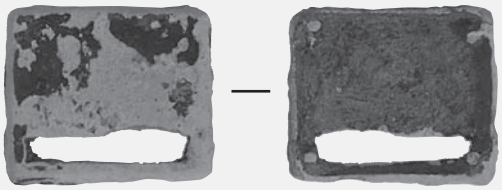

H－7－2

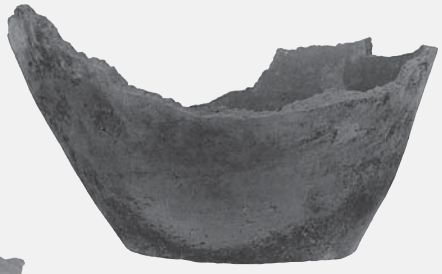
H－7－3

H－7－4


H－7－8（1/1）

H－7－5


H－7－7（1/1）


H－7－6（1/4）

H－9－1

H－9－2

H－9－3（1/4）

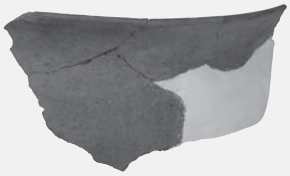
H－10－1

H－10－2

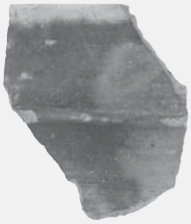
H－9－3（1/4）

H－11－1

H－11－2
(1/4)


H－12－1（1/4）

H－13－1


H－13－3（1/4）

H－12－3（1/4）

H－12－2（1/4）

H－13－2

H－14－1

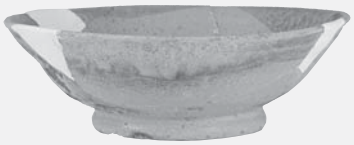
T－2－1

DB－2－1

H－14－2（1/4）

T－2－2

DB－2－2


DB－3－1

DB－3－2

DB－3－3

D－2－1

D－3－1

D－7－1

D－7－2

D－7－3

D－7－4

D－7－5

D－7－6

D－7－7

D－7－8

D－7－9

D－7－10

D－7－11

D－7－12

D－10－1

D－11－1

D－11－2

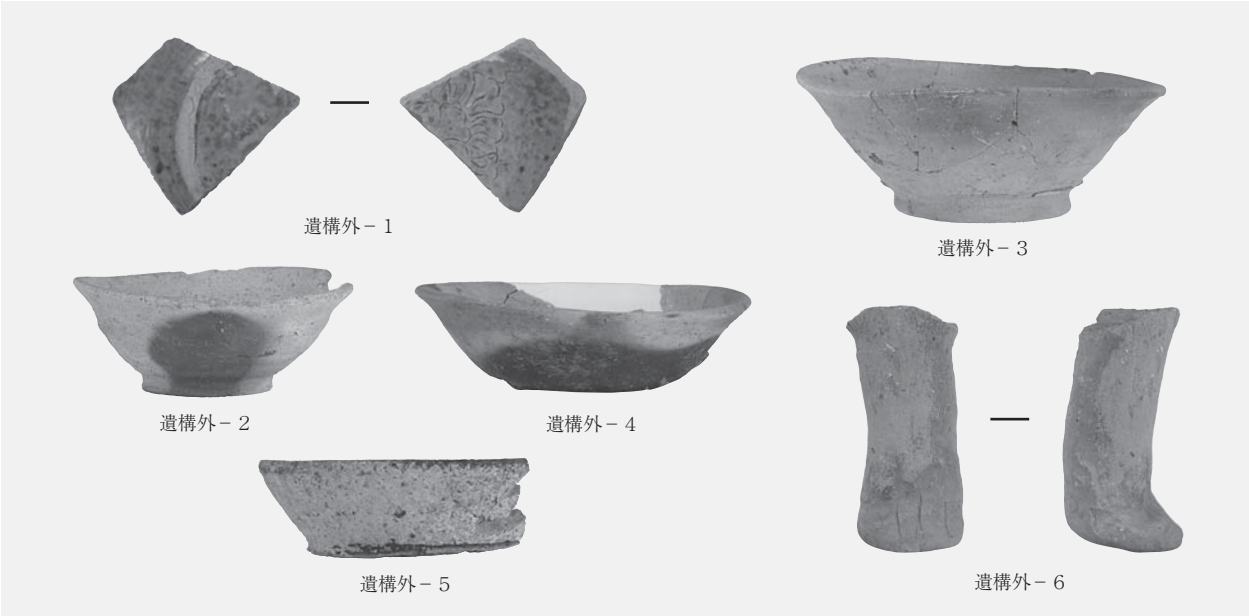
D－11－5

D－11－4

D－11－3

D－11－6（1/4）

D－11－7（1/4）



報告書抄録

カタカナ	セイブダイイチオチアイイセキグン（４）
書名	西部第一落合遺跡群（４）
副書名	前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	岡野　茂
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町 1-15-3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番４
発行年月日	2022年３月25日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
セイブダイイチオチアイイセキグン 西部第一落合遺跡群（４）	グンマケンマエバシシモトソウジャマチ 群馬県前橋市元総社町 749、751-1、751-2	102016	3 A269	36°22’57	139°02’16	20211011 ～ 20211130	272㎡	前橋都市計画事業 西部第一落合 土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西部第一落合遺跡群（４）	集落	古墳時代	溝	土師器	
		奈良・平安時代	竪穴建物跡 竪穴状遺構 道路状遺構 井戸 木棺墓 土坑・ピット	灰釉陶器 緑釉陶器 須恵器 土師器 銅製巡方 石製丸鞆	・竪穴建物跡（９世紀後半）から銙帯金具が２点出土。 ・10世紀前半頃の石槨木棺墓
		中世	土壙墓 土坑・ピット	かわらけ	

西部第一落合遺跡群（４）
前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022年３月11日　印刷
2022年３月25日　発行

発行　前橋市教育委員会事務局文化財保護課
〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番４
TEL　027-280-6511
編集　技研コンサル株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社